

沼津高専だより

第112号

平成30年3月7日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



高専祭 人文字



高専祭ステージ



体育祭



東海北陸地区ロボコン大会



3年生合宿研修

目次

☆沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

☆校長・副校長・校長補佐から（平成29年度総評）

地域に根ざした沼津高専に 学校校長 藤本 晶 4

変化する技術者教育 副校長（教務主事） 小林 隆志 4

平成29年度を振り返って 校長補佐（学生主事） 芳野 恭士 5

平成29年度の学生寮を振り返って 校長補佐（寮務主事） 小林 美学 5

平成29年度を振り返って 校長補佐（専攻科長） 高野 明夫 6

☆KOSEN（高専）4.0"イニシアティブ

KOSEN（高専）4.0"イニシアティブについて 学校校長 藤本 晶 7

沼津高専 人財育成と地域貢献を実現する技術インキュベーション・地域創生テクノセンター長 稲津 晃司 7

「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」について 留学生支援委員長 小林 美学 7

☆各学科から（平成29年度総評）

平成29年度の年度末にあたって、機械工学科から 機械工学科長 村松 久巳 8

平成29年度を振り返って 電気電子工学科長 野毛 悟 8

平成29年度を振り返って 電子制御工学科長 鄭 萬溶 9

1年を振り返って 制御情報工学科長 芹澤 弘秀 9

平成29年度の物質工学科を振り返って 物質工学科長 大川 政志 10

年度末にあたって 教養科長 佐藤 誠 10

☆国際交流センターから

沼津高専の国際化に向けて 国際交流センター長 藤本 晶 11

海外交流委員会報告 海外交流委員長 大久保清美 11

人事異動について 平成29年度 人事異動 12

●着任挨拶

学生第一 機械工学科 金 顯凡 12

所信表明 制御情報工学科 金子 裕哉 12

☆部活動

第52回「全国高等専門学校体育大会」入賞者一覧 13

第55回「東海地区国立高等専門学校体育大会」入賞者一覧 13

●全国大会出場報告

高専大会を終えて 卓球部 小川 考輝 14

水泳部の夏を振り返って 水泳部 岩崎 一馬 15

今までの部活動を振り返って テニス部 伊藤 優月 15

全国高専大会 陸上部 大勝 友晶 16

成長 弓道部 井出 莉那 16

☆行事・コンテスト・その他イベント

●体育祭

見守る体育祭 体育祭実行委員長 増山 広人 17

●高専祭

第52回高専祭～Trump～ 高専祭実行委員長 野田 礼華 17

●3年スキー合宿

己に挑戦!!スキー研修・お互いを認め合う!!クラス別研修 3年学年代表・合宿研修担当 山中 仁 18

M3 三橋未来、E3 竹内成世、D3 川口大和、S3 望月大成、C3 岩田真歩

●ロボットコンテスト2017

全国大会出場を目指して～ロボコン部の挑戦～ ロボコン部顧問 青木 悠祐 19

ロボコン部部长 古川 陽太 19

●第11回東海北陸地区高専英語プレゼンテーションコンテスト

第11回東海北陸地区高専英語スピーチコンテストについて 教養科 藤井 一馬 19

プレコン参加を振り返ってみて 電気電子工学科4年 鈴木史栄琉 20

プレゼンテーションコンテスト 物質工学科3年 高須 麗奈 20

●第12回読書感想文コンクール

他者とつながるための読書―読書感想文コンクール報告― 教養科 小村 宏史 21

●知財の寺子屋活動報告

2017年度 知財のTKY活動報告 物質工学科5年 廣瀬 正誠 21

☆退職教職員から

定年退職にあたり 電気電子工学科 佐藤 憲史 22

退職にあたって 電子制御工学科 長澤 正氏 22

Auf Wiedersehen! 教養科 大久保清美 23

人生の通過点 総務課長 露木 弘充 24

☆卒業生・修了生から

私の高専生活 制御情報工学科5年 成田 佳未 24

感謝の意を込めて 物質工学科5年 江間 慧 25

せっかく書いたから読んでほしい 総合システム工学専攻2年（環境エネルギー工学コース） 太田 和希 25

☆私の高専時代

数学とスキーと寮生活と 電気工学科31期 鈴木 正樹 26

☆学生の研究活動（2017.4.1～2018.3.31） 26

☆平成29年度卒業生・修了生進路先一覧 31

☆教育後援会から

夢をかたちに 教育後援会会長 上柳 麻里子 33

☆同窓会から

同窓会50周年、そして未来へ 同窓会会長 木戸 実 34

☆お知らせ

海外留学プログラムについて 35

平成30年度前期分授業料の免除および徴収猶予について 35

平成30年度各種奨学金について 36

沼津高専意見箱について 38

平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）行事予定表 39

沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

以下の意欲、および学力を有する者を受け入れる

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者
- 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者
- 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者
- 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者

本 科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専 攻 科

教育方針

創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、融合複合・新領域分野をテーマとする専攻科実験の実施、長期インターンシップによるエンジニアリングデザインの実務体験、専攻科研究のマンツーマン指導などを

教育方針としており、これらの教育方針の下に以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

校長・副校長・校長補佐から（平成29年度総評）



地域に根ざした 沼津高専に

学校長
藤本 晶

これまで開かれた・風通しの良い学校作りを目指して、ホームページや新聞紙面を通じて学内の様子を発信すると共に、学校と地域とを結びつける仕組み作りを進めてきました。また保護者と学校との連携を密にするために、教育後援会に支部を作ってもらい、支部単位で密な対話をしてきました。

しかし赴任して3年が過ぎようとしている今、沼津高専の置かれている状況を眺めると、地域における存在感が大きくなった実感はありません。外部の方から聞こえてくるのは「敷居が高い学校」、「地域からは遠い学校」、と言った声で、親しみを持って貰える域には達していないように感じています。

沼津高専の地域での存在を高めるには、地域との交流を増やすことは勿論ですが、学校と地域とが相互に支えあうような姿勢や仕組みづくりも必要です。地域創生テクノセンター等を中心に地域のイベント等への協力や地元企業との共同研究や交流も進めています。



変化する技術者教育

副校長（教務主事）
小林 隆 志

最近の技術の進歩には目を見張るものがあります。コンピューターの飛躍的性能向上や幅広い分野での技術進展にともない、スマートフォンはごく当たり前の製品となり、実現はしばらく先と予想されていた自動運転車、AI（人工知能）などに関する技術も急速に進展しています。自動車では、長い歴史のあるエンジンに代わる動力として蓄電池とモーターが脚光を浴びています。2年後に開催される東京オリンピックまでには一層技術革新が進むものと思います。

この3月に卒業を迎えられた皆さん、おめでとうございます。皆さんはこのような大変変化の大きい時代に社会人となります。近年の急速なIT（情報技術）の進歩により、将来必要とされる職種も大きく変化するといわれています。常に学び続ける姿勢をもって、新しいことを吸収しつつ、次の時代を支える技術者として活躍される

昨年度から始まった文部科学省のCOC+事業や、今年度採択された高専4.0イニシアティブ事業も、学校の地域への取組みを促してくれています。COC+事業では、地元企業への就職者を増やすことを、また高専4.0イニシアティブの採択事業では、地元企業との協同教育を目標に挙げています。

地域との交流を進めるための環境は徐々に整ってきています。この環境を追い風にして、学校がどのように地域の発展・振興に寄与できるかが課題となります。COC+の担当者やテクノセンターの関係者だけでなく、沼津高専の関係者全員が、地域に関心を持って日々業務に取り組む必要があります。

静岡県東部には、工科系の高等教育機関は沼津高専しかありません。大学や短大のない沼津市においては、本校が唯一の高等教育機関となります。地域の発展や人材の育成に果たす本校の役割、そして本校への期待には、他の地域よりも大きいものがあります。

高専は技術者を育成するために設立され、これまでに優秀な技術者を産業界に輩出してきました。社会が変化し、高専への要求が多様化した現在も、その役割が変わっていないことは、卒業生への多くの求人からも明らかです。沼津高専がその期待に応え続けられるように努力をしたいと思います。

ことを願っています。

社会環境の急速な変化のなかで、高等教育機関における教育も見直しが迫られています。今年度から大学及び高等専門学校は三つのポリシー「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）を明確化し、公表することが義務付けられました。本校の三つのポリシーはホームページで公開されています。ご確認いただきたく存じます。また、教育活動を中心とする学校の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行うことも義務付けられています。本校としても、常に社会の動向にアンテナを張り、変化を捉えて、これを三つのポリシーに反映させるとともに、教育の成果を公表してまいります。

教育面では、高専教育の特色である、学生の持っている夢やアイデアの実現のための自発的な挑戦も応援できるような体制を整備していきたいと考えています。教育改善にも取り組み、ICT（情報通信技術）やアクティブラーニングを用いた教育体制も整えるべく検討を進めています。保護者・卒業生・学生の皆さんからも忌憚のな

いご意見・ご要望をお願いできればと思います。

これからも教育・研究・社会貢献に邁進し、すべての学生が明るくのびやかに過ごせる学校づくりを進めたい

と考えています。引き続き保護者の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。



平成29年度を振り返って

校長補佐（学生主事）
芳野 恭士

この一年間、学生たちの学習や生活に関連して様々なことがありました。学生のメンタル面でのトラブル、登下校時や授業中の事故、非違行為などについて、昨年度より大きく組織を変更された教育後援会の皆さまの協力をいただきながら、今後ともできる限りの対応と指導を教職員一同で行っていく所存です。

さて、年度当初に学資面での支援制度として、本校の授業料免除制度とともに昨年度新設された「五月の太陽奨学基金」をご紹介します。ここまでの2年間で、4名の学生がこの本校独自の基金制度を利用することになりました。本校にはこれら以外に同窓会の奨学金制度もあり、学生たちに安心して学習を継続してもらえる環境を整えています。いずれも採択に一定の条件はありますが、深刻な学資の問題が起こった際にはまず担任教員にご相談ください。

もう一つ、年度当初に注意を喚起させていただいたインターネットに関するトラブルですが、残念ながら今年度もSNSを含むネットでの問題がいくつかありました。その原因の一つと感じられるものに自己管理の不十分さがあります。学生の身分証明書である学生証をなくして再発行を求める者が多くいますが、紛失した学生証には

様々な個人情報がかかれていたために、いたずら等に悪用される可能性があります。同様に、ネット上のツイッターやフェイスブック、ラインといったSNSに、自分や友人の個人情報あるいは写真などを載せてしまうと、思わぬいたずらに使用されます。一度ネットに掲載された情報や写真は、自分のサイトで消去してもすでにコピーされて別のサイトに残っており、ネット上に拡散した情報に将来にわたってつきまといられる可能性があります。そういったネットのデメリットを充分理解した上で、どのように利用するのが良いのかよく考える必要があります。ネット上でのトラブルのもう一つの原因として、フリーマーケット（フリマ）サイトがあります。未成年でも登録が可能で簡単に物を売ったり買ったりできるサイトもありますが、金銭の授受が生じることや基本的にトラブルへの対応は本人同士に任されることから、問題が生じやすいものと思われま。また、ネット上にはこのようなサイトでクレームやいたずらをするのを楽しんでいる困った者たちもおり、そういう人に絡まれてしまうと面倒なトラブルに巻き込まれます。保護者の方々も、お子さんとネットの適切な使い方について、是非折に触れて話しをしてみてくださいと思います。

ところで、今年度も学生たちは勉強に運動にと活躍しました。その様子は本校のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。5年生の進路についても、就職、進学ともに例年通りに決まっています。これからも、事故や社会的なトラブルに巻き込まれることなく学生たちが元気に活動できるよう、教職員と保護者の皆さんとで見守っていききたいと思います。



平成29年度の 学生寮を振り返って

校長補佐（寮務主事）
小林 美学

この原稿を書いているのは1月です。まだ年度末を迎えてはいませんが、4月におそろおそろ寮生活を始めた1年生も今はだいぶたくましくなりました。役員経験者が多くなかったため、少し不安に思っていた寮生会の仕事ぶりもすっかり板について、もう来年度の役員への引き継ぎの時期です。毎年思うことですが、本当に学生達の成長は早いものだと思います。

さて今年は10月に、1年生全員に対して二人部屋の相方変更を行いました。荷物移動など大変だったとは思

ますが、新しい相方と生活することで新たな発見があったことと思います。中にはそれまでの関係が良すぎて、新しい相方とはなかなかなじめなかった学生もいたかも知れませんが、その経験が大事な財産だと思います。

今年度残念だったのは、現金紛失が何件かあったことです。いずれも現金を鍵のかかる引き出しやロッカーの中には入れてなかったり、鍵のかかる引き出しの中に入れてあってもその鍵が直ぐ分かるところに置いてあったりと、寮生自身にも貴重品の管理方法に気をつけてほしいケースでしたが、玄関の電子錠化や防犯カメラの設置など、設備面からもできることを考えて行きたいと思います。

さてすでに教育後援会支部会など説明差し上げていますが、遠方の学生もなるべく再入寮できるように、全寮制の弾力的運用を来年度の新入生から1年生にも適用します。1年生の中にはじめから自宅通学を選択する学生

が一定の割合現れるでしょうから、寮の雰囲気もこれまでとは少し変わるかもしれません。これを機に、これまで当たり前だと思っていたことがらも、見直されることと思います。

私も来年度は新しい主事と交代することになりました。この3年間、保護者の方々をはじめとして多くの方のお世話になりました。学生寮のこれまでのよいところを大事

にしながらも、少しずつ手を入れてきたつもりですが、4月からはまた新しい主事の考えの基、新しい試みが行われることと思います。本校の寮も50年以上続く伝統のある寮ではありますが、主人公はその時その場所で生活する寮生達です。寮生達にもこれまでのしきたりや慣習にとらわれず、新しい考えで物事にチャレンジし続けてほしいと思います。



平成29年度を振り返って

校長補佐（専攻科長）
高野 明夫

日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。平成29年度を振り返るにあたり、特例適用、1年生の長期インターンシップ、2年生の進路状況の3点について報告いたします。

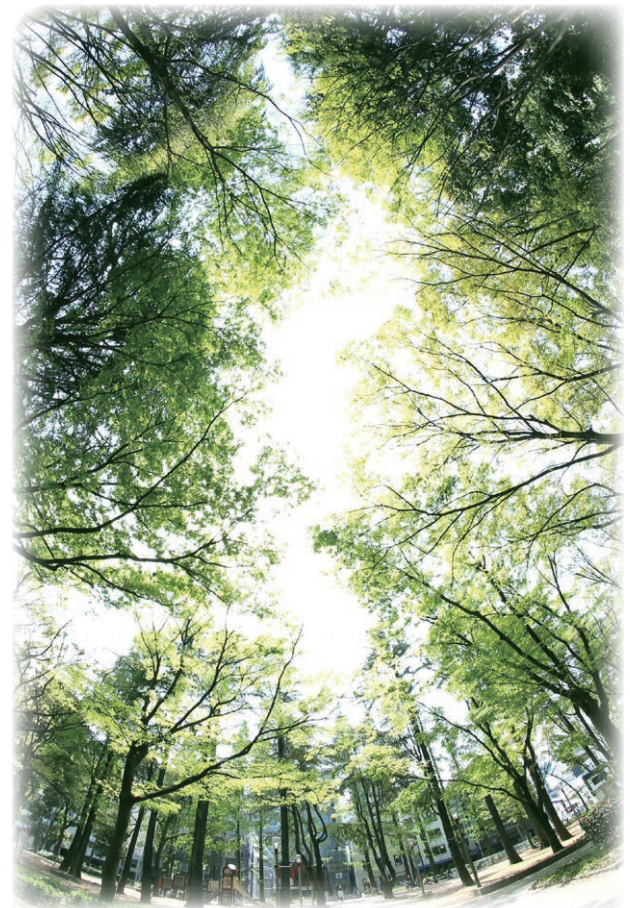
まず、特例適用についてです。本校専攻科は、機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学の5つの学位専攻について特例が適用されています。特例が適用されると、学生が学士の学位申請を行う際に、通例申請で課される学修成果レポートと筆記試験が免除されます。本校は、今年で特例適用専攻科になって3回目の修了生を輩出しますが、今年も修了予定者25名の内24名に特例が適用され、学士（工学）の学位が授与される見込みです。残り1名は過年度生で通例申請で学位を取得する見込みです。

特例適用専攻科では本科の卒業研究指導と異なり、審査を経た教員が専攻科研究を担当します。今年も9月に指導教員の追加申請を行い、4名の教員が新たに認定されました。これで機械工学8名、電気電子工学9名、情報工学7名、応用化学7名、生物工学5名の延べ36名の教員が指導教員として認定されたことになります。全員博士号取得者です。

次に1年生の長期インターンシップの状況についてお伝えします。専攻科では、1年生の後期10月から1月までの約4か月間、学生を企業や大学に派遣して、設計・製造・開発や実験・解析・研究の実務を体験させます。企業からは、平成27年度27件、平成28年度36件、平成29年度39件（短期を除く）の募集があり、年々増えています。今年は企業に14名、大学に7名、団体に2名、団体と企業両方に2名、団体と大学両方に1名、海外大学（韓国、クモ工科大学）に2名が派遣されました。グローバル化を反映し、配属先に海外の大学が加わった点が今年の特徴です。なお、12月8日に長期インターンシップの中間報告会を行いました。2月9日には最終報告会（一般公開）を予定しています。

最後に2年生の進路について報告します。今年も修了

予定者25名のうち、就職内定者が18名（パナソニック株式会社アプライアンス社、リンクス、明電舎、AMECコンサルティング、日本軽金属、富士乳業2名、パワーソリューションズ、富士フィルムメディカル、横浜ゴム、矢崎総業2名、三菱電機エンジニアリング、パナソニックITS、日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア、ケイ・アイ化成、花王、マツオ工機）、大学院への進学予定者が7名（慶應義塾大学大学院、電気通信大学大学院、名古屋大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、東京医科歯科大学大学院）でした。修了予定者の内、就職希望者に対する就職率、進学希望者に対する進学率は共に100%でした。今後とも専攻科への皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



KOSEN (高専) 4.0"イニシアティブ

KOSEN (高専) 4.0"イニシアティブ について

学校長
藤 本 晶

「日本再興戦略2016」等の提言を踏まえながら、「新産業を牽引する人材育成」、「地域への貢献」、「国際化の加速・推進」の3つの方向を軸に、各高専の特色を前面に出してカリキュラムの改変や組織改編等に取り組むための予算、『KOSEN (高専) 4.0"イニシアティブ』が新たに

創設されました。

沼津高専はこのうち、「新産業を牽引する人材育成」、「地域への貢献」を具現化するための地域創生ラボラトリーの設置、および「国際化の加速・推進」を目指して学内留学を中心としたキャンパスの国際化の2件を申請し、採択されました。

現在2件の事業を実現し、成果を出すべく活動を始めています。地域創生ラボラトリーでは入居企業が決まり研究開発活動が始まっています。また国際化では、短期留学生の宿泊施設を整備すると共に、学内の表示の多言語化を進めています。

沼津高専発 人財育成と地域貢献を実現 する技術インキュベーション

地域創生テクノセンター長
稲 津 晃 司

本校が位置する静岡県は、都道府県別工業製品出荷額で常に上位の「ものづくり県」です。また、最近6年間は医薬品・医療機器の生産金額で全国第1位と、医療・健康産業が静岡県の新しい特色産業となっています。

このような新産業での地域の成長を力強くするための貢献は、沼津高専の特色、強みとして地域が求めるものです。このためには、地域企業の新商品開発とその上市が実現できるよう、共同研究等で成果をあげることと、産業界と連携したCOOP教育により新産業で活躍できる人財の育成を併せて行うべきです。

これに関連して、新産業参入を検討する中小企業から

は新商品開発のためのハードおよびソフト両面でのニーズが、本校専攻科の特色の一つである長期インターンシップを行う学生からは実習先滞在における負担軽減のニーズがあります。これらに応えるべく、本校地域創生テクノセンター内に企業が研究開発を行える専用スペース、「未来創造ラボラトリー」を設けました。ここでの企業の研究開発を本校教員が共同研究等で推進するとともに、インターンシップを学内で行う新しいCOOP教育による人財育成を意図しています。

この取り組みは、高専では例がない、新しい取り組みです。未来創造ラボラトリーで教員、企業技術者とともに学生のみなさんが学内で研究開発を通して商品化までの過程を学ぶことができる「学内インターンシップを軸としたCOOP教育」を行うことで、新産業を牽引する技術者として輩出され、静岡県での新産業への貢献が本校の特色・強みとなるよう、精力的に取り組んでいく所存です。一層のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」について

留学生支援委員長
小 林 美 学

若い年齢の内に海外に出かけ、日本とは異なる文化にふれあうことは大変大事であるとは思いますが、誰もがみな、その機会を利用できるわけではありません。それを考えると、学内における国際化を進め、学生が学内にいながら国際的素養や感覚を身につけることができる環境を学内に整えることが大事であることに気づきます。このような考えや取り組みをInternationalization at Home (IaH)と呼びます。

本校ではこの考えに基づき、「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」との名称で、学内の国際化を進めているところです。具体的には、短期留学生居住環境の整備、留学生との交流行事の実施、国際理解科目の整備、校内標識の多言語化、長期留学生へのサポート体制の強化、海外新規校との提携締結などに取り組んでいます。

まだまだ目に見える成果は出ていないかも知れませんが、「よいものはカタツムリのように進む」との言葉もあります。ふだんの学校生活の中で自然と異文化を理解し、国際的感覚が身につくような環境を整えたいと思います。

各学科から (平成29年度総評)



平成29年度の年度末にあたって、機械工学科から

機械工学科長
村松久巳

学生の皆様は学年末試験が終わり、ひと段落しているところだと思います。また保護者の皆様におかれましては日頃より、機械工学科の運営にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。本年度はWebシラバスへの移行、モデルコアカリキュラムへの対応、学修単位の導入など新しい取り組みを行いました。機械工学科の専門科目の学習目標と達成レベルを明確にして、科目の位置づけや身に着ける内容が明確にされています。Webシラバスへは、つぎのURL

<https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSchools> をご覧ください。就職担当として企業からの求人の方と面談にすると、入社した高専卒業生は実技の体験が豊富であり、よく勉強をしていること、専門性とともに入人物に優れ、職場のリーダー候補であるなどの説明を受けます。機械工学は多種多様な分野からの求人があり、活躍の範囲は広がっています。企業には多くの卒業生が活躍

していて、後輩にぜひつづいてほしいとの声も届いています。自己実現のために、また社会からの要請に応えるために、新年度からいっそう熱心に勉学に取り組み、充実した学校生活を過ごすように願っています。

昨年12月に5年生から3年生と2年生への進路講話を行いました。大学や専攻科に編入学または進学する学生と企業に就職する学生が、それぞれの進路に向けての準備したことや試験について説明をしました。進学だけでなく就職試験には書類を準備して、面接や筆記試験があることなど有益な内容を聞くことができたと思います。また4年生への進路懇談会を実施しました。企業で活躍されている本校の卒業生を招き、業界の動向、仕事の内容、学生時代に取り組んでおくと良いことなどを話題提供していただきました。5年生に向けて、具体的な進路の計画や将来像をえがくことに役立てていただけたと感じています。

最後になりますが、休業中にご家庭において進路希望とその準備についてご子息・ご息女と話し合ってください。また交通事故やけがのないようにルールを守り、危険の予知や安全確認を怠ることのないようにしてください。機械工学科の教員は保護者の皆様とともに学生の成長に全力で取り組みますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。



平成29年度を振り返って

電気電子工学科長
野毛 悟

日頃より、電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。

平成29年度を振り返り電気電子工学科の取り組みをご紹介します。

まずは、今年度の電気電子工学科の進路状況について記します。36名（うち3名が留学中）です。就職希望者は18名、進学希望者は15名でした。就職は昨年にも増して大変好調でした。多くの卒業生の活躍に裏打ちされた沼津高専電気電子工学科学生の実践力に高い評価を頂いております。求人票を受け取った企業数は700社に迫る勢いであり、内180社からご訪問もいただきました。来校数は近年増加の一途を辿り、今後も卒業生への求人は順調に推移すると考えられます。このような好況の中、就職希望者全員が内定をいただきました。就職予定企業は、電力、通信事業関係、製薬、食品関係含め広範囲にわたっています。次に、進学の状況についてです。従来

通り東北大などの有名大学、全国の大学と沼津高専・専攻科に進学を決めました。しかし、大学進学後に専門分野を変更しようと挑戦した学生らは苦戦しました。電気電子系から物理学科や教育、経営系学科への転身にはリスクも伴いますので、受験に備えた十分な情報収集と準備が必要となります。

今年度の結果を踏まえ、平成30年度については、既に現4年生を対象として、就職や進学の指導を行なっております。現3年生にもキャリア教育として、インターンシップ先企業の紹介を中心とした進路選択に関連するイベントを実施しました。今後も自分の将来を考えるきっかけと気づきの機会を数多く提供したいと考えています。

電気電子工学科では学力の補強にも力を入れております。初の試みとして、夏休みに主に2・3年生を対象とした浜松地区での勉強合宿を実施し、一定の成果が上がったと認識しております。このような学科独自の活動も、いろいろな改善等のご意見を取り入れながら継続して行う計画です。特に低学年の学力の定着はその後の進路選択に大きく影響しますので、低学年の学力充実を喫緊の課題として取り組んで参ります。

電気電子工学科は今後とも教育・研究の充実と発展を目指し、学生のポテンシャルの高さをより認知して頂けるよう教員一同全力で取り組みます。保護者の皆様にお

かれましても、周囲の方々に高専の特徴や就職や進学
の状況など、高専の「強み」を是非ご紹介いただければ幸

いです。引き続き皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、
よろしく願い申し上げます。



平成29年度を振り返って

電子制御工学科長
鄭 萬 溶

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこと
とお慶び申し上げます。日頃、電子制御工学科における
教育と学科運営にご理解とご協力を賜りまして、心から
感謝申し上げます。

11月の学科説明会においてもご報告いたしました
が、5年生44名の中、丁度半分の22名が就職、残りの22名が
進学希望で活動を始めて全員無事に進路が決まりました。
進学に関しては、7名が大学に、15名が専攻科に
進学することになりました。就職につきましては、景気
回復の兆しとともに求人倍率が上昇しており、ほとんどの
学生が順調に進路を決めておりますが、進学に関しては、
全体的に目標が低く、少しチャレンジ精神が欠けて
いるように感じています。今後は、社会の変化を鑑みて、
業種や専門分野に関する情報をなるべく多く提供し、しっ
かりとした短期と長期のキャリアプランを持って進路を
決められるように指導していきたいと考えております。

話が変わりますが、長澤先生がこの3月で定年退職され

ます。長澤先生は、平成2年本学科に赴任され27年間、沼
津高専と学科の発展に大きく貢献されました。今や学科
の柱であるMIRSの骨格を作り上げ、第9回NHKロボコ
ンでは、学科の学生たちを指導し、東海北陸地区大会優
勝に加え、全国大会での審査員特別賞の実績を残しまし
た。また、「流星バースト通信」に関する研究では、半年
間の南極での計測・研究活動に従事するなど、この分野
の研究進展に大きく貢献されました。また、地域企業と
の共同研究では、「トマトの木がどれくらい水分を欲し
がっているか」を測るシステムを構築し、トマト農園の
給水システムの自動化に貢献しました。先生は、定年退
職されてからもこれまで同様一部の授業を担当してくだ
さることになっております。

高専は、高専機構の指揮下で大きな変革を行って
おります。これまで各高専に任せられていた教育課程がモ
デルコアカリキュラム(MCC)というもので統一化を
図ろうとしております。複合専門学科である電子制御工
学科では、特にその影響が大きく、一部の科目にお
いては授業内容を変更していく必要があります。場合によ
っては、科目変更があるかも知れませんが、これまでの
学科の特徴を維持しながら、機構の要請に対応してい
きたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協
力をよろしくお願いいたします。



1年を振り返って

制御情報工学科長
芹 澤 弘 秀

保護者の皆様をはじめ、関係各位には日頃より学科運
営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
特に、年度初めには授業の入れ替えや担当者の急な変更
にご理解を頂き、感謝申し上げます。また、11月の学科
説明会には多数のご参加を頂き、大変ありがとうございました。
説明会でも紹介させていただきましたが、産休
中の松本准教授の代替教員として10月1日付で金子裕也
助教が着任しました。金子助教は本校電子制御工学科の
OBで、専攻科を卒業後、奈良先端科学技術大学院大学に
進学し、この3月で博士後期課程を修了する予定です。
ハードとソフトの両方に詳しく、即戦力として授業と校
務に柔軟に対応してもらっており、大変頼もしい存在で
す。

さて、制御情報工学科の進路状況についてご報告をさ
せていただきます。就職指導担当(長縄教授)の指導の

もと、今年度の就職活動は予想通り順調な滑り出しと
なり、当初からの就職希望者に加え、途中から就職に切
り替えた学生も含めて、計15名の就職希望学生全員が
内定を頂きました。就職先は、キャノン、アルバック、
横河電機、テクノサイトなど、県内外の様々な業種の
企業となっていて、高専は就職に強いということを改
めて実感しました。一方、進学に関しては、進学指導
担当(S5担任：長谷教授)の指導のもと、クラスの半
数以上の学生が大学編入学試験等の進学試験に合格し、
19名が東大・東工大をはじめとする国公立大学等へ
編入学、1名が本校専攻科へ進学する予定となってい
ます。5年生諸君は4月から新しい環境で仕事や勉強
に励むこととなりますが、就職や進学はゴールで
はなく、数十年にわたるキャリア人生のスタート
ラインによく立ったという段階です。人生の最終目
標に向けて日々精進してほしいと思っています。

4年生以下の学生諸君は4月から学年が一つ上
がり、「就職・進学」という現実が近づきます。最適
な進路決定には低学年から仕事について十分に考
えておくことが必要です。また、今年の編入学試
験を振り返ると、問題の傾向が大きく変わったり、
受け入れ枠が大幅に縮小となったりした大学が少
なくなると、苦戦した学生が例年以上に

多く見られました。出題傾向のなかった低学年の物理の内容が出て困惑したとの話も聞いています。試験直前にまとめて勉強しても間に合わず、日々の勉強が重要であることは言うまでもありません。過去間に極度に依存するような点数にとらわれた勉強法ではなく、実力が付く真の勉強法を低学年から実践することが重要です。



平成29年度の物質工学科 を振り返って

物質工学科長
大川 政 志

平成29年度も物質工学科の教育・研究にご支援を頂き、保護者の皆様をはじめ関係各位の皆様にご挨拶を申し上げます。物質工学科の1年間を振り返ってお伝えいたします。

本年度は41名の新入生と留学生1名を新たに迎え、物質工学科2年生43名、3年生43名、4年生45名、5年生43名でスタートしました。

昨年度まで行われていた混合学級が終了し、本年度の1年生は物質工学科の学生だけで1年間を過ごしました。夏休み前にクラブ活動で大怪我を負った学生もおり教員一同心配を致しましたが、現在は元気に勉学に励んでいる姿が見られて安心しております。クラス一丸となって卒業することを切に願っています。

4月に1年生の御殿場研修、10月に2年生の日本平動物園、グランシップでの観劇による研修旅行と4年生の関東方面への工場見学、1月に3年生のスキー合宿研修

最後に、現在アリゾナ大学(米国)に在外研修中の大久保准教授が3月中旬に帰国予定であるため、来年度は教員11名の体制となります。来年度も本学科教員一同、全力で学生指導にあたっていきますので、保護者の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

の恒例行事が無事行われました。研修を通じて得たものを学生一人一人の糧にしてほしいと願っております。

平成29年度の5年生の進路について報告いたします。本年度の就職内定者は14名(女子7名)、進学内定者は27名(女子6名)となっています。就職は景気の良さが反映されたようで、早々と内定をうける学生が多く、ほぼ全員が第一希望の企業から内定をいただいております。一方、国立大学や専攻科から合格を得て、進学先を決定しております。しかし、第一希望以外の大学への進学予定者が昨年より多いのが気になります。第一志望先では無くても新たな勉学の地でいっそう努力してくれることを期待しております。今年も無事5年生が進路を決定できたのは学生の努力のみならず、保護者をはじめOB、OG、学校関係者の皆さまのおかげと感謝を申し上げます。来年度以降も自信を持った卒業生を世の中に送り出せるよう教員一同、研究教育に精力を注いでいきたいと思っております。

最後に、来年度は竹口昌之教授が人事交流のため和歌山高専へ行くことが決まっております。また、化学工学や材料科学を担当されていた大島一真助教が東京の大学へ転出されますことを報告させていただきます。



年度末にあたって

教養科長
佐藤 誠

日頃より、教養科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。今年度の教養科においては佐藤志保先生の急逝など多くのことが起こりましたが、何とか1年を終えようとしています。

さて、高専教育を取り巻くさまざまなことが大きく変化しようとしています。まず、来年度からはモデルコアカリキュラムをベースとした教育課程が本格的にスタートしようとしています。教養科が担当する一般科目においては、リベラルアーツとして学生の教養を育成していくという側面と工学教育の基礎を育成していくという側面の二つの役割が求められていると思います。これまで、これら二つの側面を両方とも大事にしながら各教科

において教育プログラムが構成され、授業が展開されてきました。来年度以降はモデルコアカリキュラムとの関連において、この両面をどのように考えていくのかという問題に真剣に取り組んでいかなければならないと感じております。さらに、今後進められていく教員の定員削減という問題に対しても、教育の質保証という観点からいろいろな対応を考えなければならなくなっています。このような中で、教養科の教育プログラムや授業についてもさまざまな変化が生じてくることが予測されます。保護者の皆様には、このような状況をご理解いただければと思います。

最後になりますが、これまで長きに渡り寮務主事や学生主事等の要職を務められ、ドイツ語教育に尽力されてきた大久保清美先生が定年退官を迎えられます。幸いなことに先生は再任教員として学校に残っていただけることになっております。また、英語を担当されてきた藤井数馬先生が長岡技術科学大学に転出されます。現在、教養科では来年度3名の新しい先生をお迎えする予定でございます。来年度も新しいスタッフとともに、いろいろな

課題を解決しながら学生の皆さんが充実した学生生活を
送れるよう努力していきたいと考えていますので、引き

続き保護者の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

国際交流センターから

沼津高専の国際化に向けて

国際交流センター長
藤本 晶

高専にも「グローバル化」と言う国際化が強く求められるようになってきました。これまでも多くの卒業生が国内のみならず、海外で活躍しています。この動きは今後益々顕著になって行くでしょう。沼津高専を巣立って行く卒業生一人一人が国際的に活躍できる素養を身に付ける必要があるのです。

英語の修得も求められますが、それ以上に異文化を理解することが求められます。学生が海外に出かけて、異

文化に直に触れられれば良いのですが、多額の費用が掛かります。安価に、そして身近に異文化に触れることのできる機会を作る必要があります。

在学中の留学生と日本人学生との交流の場を広げることにも一助になります。またクモ工科大学のような協定校との相互交流も有効でしょう。今年度は、高専4.0イニシアティブの予算をいただいて短期留学生のための宿泊環境の整備も実現できました。有効に使いたいと考えています。

今後はクモ工科大のような海外協定校を増やして相互交流を進め、学内に居ながら異文化に触れる機会を増やすとともに、生の異文化に触れられるように学生の海外への研修旅行の実現も視野に入れて、沼津高専のグローバル化を進めて行こうと考えています。

海外交流委員会報告

海外交流委員長
大久保 清美

今年度、本校学生の海外派遣は4件26名、外国からの短期留学生の受け入れは2件7名でした。

詳細は下の一覧表のとおりです。今後ますます国際交流が盛んになるよう学校をあげて努力して参ります。

学生の海外派遣等一覧（平成29年度）

年度	名 称	期 日	学生参加者数	主な訪問（研修）先
29 派 遣	ニュージーランド語学研修&異文化体験 (本校主催)	平成29年 8月19日～ 平成29年 9月10日	21名 (本科 2～5年生)	New Zealand Language Centre (ニュージーランド) ※引率教員1名
	国立高等学校海外研修 (Aプログラム) ペナンプロジェクト体験型研修 (豊橋技科大・機構本部主催)	平成29年 8月27日～ 平成29年 9月10日	1名 (本科 4年生)	豊橋技科大ペナン校、 Disted Collge (マレーシア)
	テクニカルチャレンジプログラム2017@香港 (熊本高専主催)	平成29年 8月20日～ 平成29年 8月30日	2名 (本科4・5年生各 1名)	香港VTC/IVE(Sha Tin Campus) (中華人民共和国)
	専攻科海外長期インターンシップ (本校主催)	平成29年10月24日～ 平成29年12月24日	2名 (専攻科1年生)	クモ工科大学 (大韓民国)
29 受 入	Short Study Program for the KMITL (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang) Students	平成29年 6月15日～ 平成29年 7月13日	2名 (短期留学生)	キングモンクット工科大学 (タイ:機構本部包括協定校)
	Training Program for KIT (Kumoh National Institute of Technology) Students	平成29年 7月3日～ 平成29年 7月30日	5名 (短期留学生)	クモ工科大学 (大韓民国: 学生交流協定校)

平成29年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
2017年7月1日	金 顯 凡	准教授（機械工学科）に採用	
2017年10月1日	金 子 裕 哉	助教（制御情報工学科）に採用	

着任挨拶



学生第一

機械工学科
金 顯 凡

山口大学で博士前期・後期課程を修了した後、物質・材料研究機構で研究経験を積み、平成29年7月より機械工学科に着任いたしました金顯凡と申します。今年をもちまして来日10年目になります。よろしくお願いたします。

非常に評判が良い沼津高専で教育・研究に携われることを光栄に思っております。特に沼津高専では卒業研究、ミニ研究、専攻科課程、高専祭、クラブ活動、寮生活な

どの学生を中心とした取組みが活発に行われています。沼津高専ならではの教育・研究活動に貢献できるように懸命に取り組んでいきたいと考えております。

私は大学で天然繊維複合材料の製造方法・製造装置の開発や信頼性評価に関する研究を行い、物質・材料研究機構では接着・接合技術の開発について研究をしておりました。これまでの経験を生かして沼津高専では先端機械材料や材料力学などの授業を担当します。授業では、ものは何故壊れるのかを実物を見せて、体験的な学習ができるように努めていきます。また、学生が自ら考える機会を与え、様々な問題に対して自分の意見を言える人材の育成に力を入れていきます。高等教育機関での職務は初めてですが、学生のために何ができるかを日々考えながら努めて参りますので、よろしくお願いたします。



所信表明

制御情報工学科
金 子 裕 哉

2017年10月に沼津高専制御情報工学科に助教として着任しました金子です。よろしくお願いたします。

実は私は沼津高専の電子制御工学科を卒業、専攻科を修了した者です。その後大学院へ進み、今回また沼津高専へ戻ってきました。自分が学生のときに指導を受けた教員もおり少し不思議な感覚ですが、学生だった頃にどんな講義は楽しかったか、どんな悩みがあったかを思い出し活かそうと思います。

平成29年度は制御情報工学科2年生のプログラミング演習Iと4年生の数値解析という科目を担当しました。プログラミング演習はC言語の基礎を身につける科目、数値解析はコンピュータに精度よく効率的に計算させるプログラムを作成できるようにする科目です。2年生は初めて本格的にプログラムを作成する学生が多く四苦八苦ながらも頑張っています。4年生の数値解析では数学寄りの講義の後にこれをプログラムに書いてくださいと言うだけで学生は黙々と書き進めていくので課程の中で確か

に成長しているのだと感心しました。同時に2年生が順調に課程を進んでいけるよう上手く教えなければと思ひ努めています。

講義を行う中で、学生は勉強の内容に対し「役に立つかどうか」を非常に気にしていると感じました。自分が学生だった頃もそうだったように思いますし、普通高校に進むのではなく大学より早く工学について学ぼうと決めて高専に来ているので高専生の性質かもしれません。それを意識することは技術者を目指す上で大切だと思います。しかし、それに縛られるのは勿体ないです。なかなか学問の入り口ではどう役に立つかわからないことも多いですが、様々なことを勉強するうちにある時色々なことが繋がりこれまでと違う景色が見えてくることがあります。クロスワードパズルをあるところまで埋めると一気に解けるような感覚です。ぜひ学生にはすぐに役に立つかという尺度で測るだけでなく何がわかるようになる感動を大事にしてほしいと思います。ただすぐには価値がわからないことを学ぶのはゴールの見えない道をするようなもので辛い時もあると思いますので、学生には今勉強していることの発展がこういう役に立っている、今まで勉強したことだけでこんなことができる、ということを示して学ぶことの面白さを伝えたいと思います。

まだまだ私も学ぶことが多い身ですが、日々研鑽を積んで参りますのでどうぞよろしくお願申し上げます。

部 活 動

第52回全国高等専門学校体育大会（入賞者・入賞団体）

競技名	種目名		成績	氏名	クラス
陸上競技	男子の部	走幅跳	4位入賞	瀧口 周	D3
水泳競技	女子の部	50m背泳ぎ	7位入賞	渡辺 麻彩	C4

第55回東海地区国立高等専門学校体育大会（入賞者・入賞団体）

競技名	種目名		成績	氏名	クラス	全国大会 出場
陸上競技	男子の部	走幅跳	1位	瀧口 周	D3	○
		400mハードル	2位	石田 剛士	M4	
		3000m障害	3位	米川 俊彰	E4	
		4×100mリレー	-	大勝 友晶	D4	○ ※記録により全国 出場決定
			-	土屋 美童	S4	
			-	藤川 泰佑	S4	
			-	吉田 健太	C3	
	-	小池 鼓太郎	E1			
-	小川 宗徳	D4				
女子の部	100mハードル	2位	佐藤 伊鞠	M2		
テニス競技	女子団体の部		優勝	伊藤 優月	C4	
				小澤 英真	C3	
				上柳 舞弓花	E4	
				彦坂 萌々花	C2	
	女子個人の部	シングルス	優勝 第2位	伊藤 優月	C4	○
				小澤 英真	C3	
	ダブルス	優勝	伊藤 優月	C4	○	
			小澤 英真	C3	○	
バドミントン競技	男子団体の部		3位	鈴木 晴喜	M4	
				藤井 秀峰	M4	
				山本 翔太	M4	
				長谷川 大地	E4	
				日吉 那央哉	C4	
	成田 正宗	D3				
	女子個人戦の部	ダブルス	準優勝	阿形 明音	C2	
橋戸 海帆	E2					
空手道競技	個人戦	組手の部	2位	崎山 亜雄太	S2	
卓球競技	男子団体の部		優勝	北村 紀人	M3	○
				平沢 朋幹	E3	
				山村 亮介	E3	
				小川 考輝	S3	
				鈴木 涼斗	S3	
				鈴木 雄心	C3	
				山竹 壺佳	M2	
				鈴木 大心	E2	
				粟野 興紀	C2	
				富坂 聖司	M1	
				鈴木 亨征	E1	
ベトワール ラトナディープ	E1					

卓球競技	男子個人の部	ダブルス	準優勝	平 沢 朋 幹	E3	
				小 川 考 輝	S3	
水泳競技	男子の部	シングルス	3位	平 沢 朋 幹	E3	
		800m自由形	1位	岩 崎 一 馬	E1	○
		400m自由形	2位			○
		200m背泳ぎ	2位	川 口 大 和	D3	○
		100m背泳ぎ	3位			
		200m平泳ぎ	3位			
		100m平泳ぎ	3位	山 崎 蒼 人	D3	
	女子の部	100m平泳ぎ	2位	渡 辺 麻 彩	C4	
		50m背泳ぎ	1位			○
		100m自由形	3位	久 我 五 葉	C2	
	弓道競技	個人の部		準優勝	渡 辺 麻 彩	C4
川 口 大 和					D3	
家 登 正 堯					E2	
岩 崎 一 馬					E1	

第4回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選入賞者

競技名	種目名	成績	氏名	クラス	全国大会出場
弓道競技	男子個人の部	準優勝	秋 山 亜久里	M3	○
	女子個人の部	優勝	井 出 莉 那	C4	○
	女子団体の部	準優勝	井 出 莉 那	C4	
			加 藤 穂 香	C3	
			岡 野 仁 瑠	M2	

※弓道競技については、第4回全国高等専門学校弓道大会東海・北陸地区予選を兼ねており、秋山亜久里君、井出莉那さんは同予選で入賞し、第4回全国高等専門学校弓道大会に出場する。

全国大会出場報告

高専大会を終えて

卓球部 制御情報工学科3年
小 川 考 輝

男子卓球部は、第55回東海地区国立高等専門学校体育大会卓球競技にて、団体の部優勝、という成績を修めることができました。この結果、八月に行われた全国高専体育大会に出場をしました。顧問兼監督を務めてくださった芳賀先生、コーチとして技術面のアドバイスをくださった稲津先生、マネジメントを担当してくださった黒沢先生、そして、試合会場が遠方であるにもかかわらず、応援に来てくださったOB、OG、保護者の方々に深く感謝を申し上げます。今回の成績はいろいろな人の協力のおかげであると考えています。

ところで、沼津高専卓球部の過去の戦績をみると、シングルスやダブルスでは何度も上位入賞をしていますが、

団体戦での入賞は少ないです。

卓球競技の団体戦は、シングルス四本、ダブルス一本を順番に行い、先に三本先取したチームが勝利します。一見「個人戦の集まり」のように見えますが、たとえ一人が強くても、ほかの選手が負けてしまうと、団体戦では勝てないのです。卓球部では、どうしても実力のある選手ばかりに頼ってしまい、チームとして勝ちきることができない……このような状況が続いていました。

今回の結果は、そのような状況が改善され始めている証明となり、部員たちの自信につながっていると感じています。

しかし今回の東海高専大会において、団体の部では優勝ができたものの、ダブルスの部やシングルの部では、思うような結果が出ずに悔しい思いをしました。

そして全国高専では、予選リーグは一勝一敗、決勝トーナメントでは初戦敗退と、惨敗に終わりました。全国高専という舞台がいかに厳しいところであるのかを痛感しました。

私がこの文章を書いているころには、次の東海高専大会まで半年を切っています。立場上、私たちは「連覇」

を狙うのですが、他の高専のレベルは当然、前回より上がっていると思います。再び苦戦を強いられるでしょう。もう一度気持ちを改め、チーム一丸となり、優勝を獲ります。そしてダブルスの部、シングルの部でも沼津高専卓球部が制することができるよう、精進します。

来年度も、沼津高専卓球部に対する皆様の応援をよろしく願います。



水泳部の夏を振り返って

水泳部 電気電子工学科1年
岩崎一馬

今年度、私の水泳部の新入部員としての活動はプール清掃から始まりました。当時はまだ4月、高専での生活に慣れていない中、同じ1年生の部員や先輩方と共にプールを清掃しました。皆で協力し清掃した後の達成感というのは素晴らしいものだったということを感じています。

プールに入って練習を始めたのは5月中旬、まだ水温が低く長時間の練習はできない状況でした。6月になると水温は高くなり本格的な練習を行えるようになりますが、東海地区高専大会までは1ヶ月しかなく、練習時間は限られています。その中で高専大会に向けての対策をしなければなりません。そして、7月15日、16日に鳥羽商船高専で東海地区高専大会が行われました。

私が出場した種目は800m自由形、400m自由形の2種

目でした。それぞれ1位、2位を取ることができ2種目とも全国大会に出場することができました。全国大会は8月26日に栃木県で行われました。全国大会となると会場内から伝わる雰囲気というのは東海地区大会とは違ったものでした。周りにいる選手たちは皆、各地の地区大会を勝ち抜いてきた人々であり、正直私はその空気の中泳ぐことにあまり自身を持ってませんでした。けれど、実際に泳いでみるとそのようなことは忘れ自分のペースで泳ぐことができました。結果は良いとはいえませんでした。この全国大会を通して「自分の足りないものは何か?」といったことを改めて考えさせられたりし、とても貴重な経験をすることができました。

今年度の水泳部の活動を振り返ってみると、大変なこともありましたが、それ以上に楽しい部活動ができたと思います。そのような部活動をつくってくださったのは水泳部の同じ1年生、先輩方々そして、顧問の先生の方々です。たくさんの人のお陰で今の水泳部があります。本当に今年度1年間ありがとうございました。そして来年度もよろしく願います。

今までの部活動を振り返って

テニス部 物質工学科4年
伊藤優月

第55回東海地区国立高等専門学校体育大会において、本校女子が三年ぶりに優勝することができました。日頃の成果を十分に発揮することができて本当に良かったです。

また私は、シングルス、ダブルス共に優勝し、8月の末に千葉県で行われた第52回全国高専体育大会へ出場することができました。全国大会は、昨年に引き続いて2回目の出場です。結果はシングルスは初戦敗退、ダブルスは物質工学科3年小澤英真さんと組み、2回戦進出でした。今回の大会は部活動の集大成として悔いが残らないよう今まで以上に精いっぱい練習しましたが、今年も全

国の壁の高さを改めて感じる結果になってしまいました。ダブルスの練習は、自分たちの攻めの形や、お互いがフォローしていく部分をもう一度見直して二人の長所を活かせるよう調整をしました。試合中にも声を掛け合い、いい雰囲気ですべてに臨むことができました。結果的に2回戦まで進み、去年を超える成績を残すことができました。

シングルスは全国大会までの練習の中で、特に意識したことは「基本に忠実になる」ことです。これは、一年生の時から顧問の先生によく言われていた言葉です。いろいろな人のプレーを見たり、指導を受けたりしてラケットの構え方や振り方、足のステップなどを変えて様々な打ち方に挑戦してきました。しかし、うまくいかないことも多かったです。その時は原点に戻って基本の打ち方を見直してより良いテニスができるように繰り返してきました。基本を確実なものにしておくことで自分のテニスに自信を持つことができ、理想とするテニスに近づくことができることを改めて感じました。

基本に忠実になるということは、テニス以外の面でも大切なことです。部活動を通して生活の面でも大切なことを学ぶことができました。このことを教えてくださいました顧問の先生には本当に感謝しています。

今回の大会は今までの4年間の部活動の集大成として臨んだ大会でした。今まで様々な試合に出場し、多くの人からご指導いただけたこの4年間は本当に充実したものとなり、多くの人と出会いそして多くの経験をすることができました。ここまで続けてこられたのも顧問の先生、コーチ、テニス部員のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。来年度の高専大会でも団体戦、個人戦共に沼津高専が良い成績であることを望みます。



全国高専大会

陸上競技部 電子制御工学科4年
大勝友晶

初めに、本大会に参加するにあたって、様々な準備や応援をして下さった先生方、保護者の皆さまに心より感謝を申し上げます。

第52回全国高専大会（陸上競技）は、長野県松本市で開催されました。大会日程は8月26日から27日の2日間でしたが、私たちは25日から現地入りをして、大会会場で調整練習を行いました。

この競技場は松本空港に隣接しており、練習していると時折、ゴォッという大きな音を立てながら、飛行機が離着陸する、とても迫力満点な場所でした。

前日の調整では、リレーのメンバーを急遽、変更することになったり、急な雨に降られたりと、アクシデントが多く発生し、慌ただしい一日でしたが、なんとか練習を終え宿舎に入ることができました。

翌日、私たち沼津高専は、男子400メートルリレーと

男子走り幅跳びに出場しました。

午前10時、号砲を合図にリレーがスタートしました。私たちは走った組の五着でフィニッシュし、結果は予選敗退でした。目標としていたタイムにも届かず、非常に悔しい結果となってしまいました。

午前11時から男子走り幅跳びの決勝が行われ、3年の瀧口周君が出場しました。瀧口君は1本目で自己ベスト記録を叩き出し、全国で4位入賞という優秀な成績を収めました。

今、大会を終えてあらためて思うのは、全国大会に出たからいいのではなく、そこで戦う力が必要であるということです。陸上部では近年になって、個々人ではなくリレー種目でも戦えるようになってきました。それだけ、選手のレベルもどんどん上がり、層も厚くなってきている証拠であると感じています。互いに切磋琢磨して練習をしていけば、必ずそれが大きな力になるのではないかと思います。私は、陸上部の主将として、自らが練習への姿勢を見せるとともに、部の雰囲気作りにも努めていかなければならないと思っています。来年度の東海高専大会は沼津で行われます。そこで、総合優勝できるように、チーム力アップや競技力の向上に努めていきたいです。

成長

弓道部 物質工学科4年
井出莉那

平成29年6月末の東海北陸地区予選大会で女子の部で優勝し、8月末の全国高等専門学校弓道大会に出場しました。

東海北陸地区に弓道部を持つ高専は4校しかなく、運営の当番が回ってくるのが早いので、私は1年生のときには運営の学生として高専大会に参加しました。4年生になり今度は選手として沼津高専が当番のときに出場しました。当番校は選手と運営の学生が必要になります。

部員をかき集めても運営の人員が足りなく、専攻科の上級生に運営を手伝っていただきました。運営に駆けつけてくださった専攻科の上級生は、私が1生のときの3年生で、特にお世話になっていましたので、成長した姿を見せたいと思い一生懸命に弓を引きました。4年間の公式の試合で一番良い結果を出すことができ、優勝させていただくことができました。また、沼津高専は女子団体2位になりました。

弓道は他の競技と違い対戦相手はおらず、対峙するのは的であり己との戦いだと思います。しかし仲間はいます。同じチームの後輩ふたりにいい流れで引かせられるように、悪い流れは私で絶てるように、と団体で勝負していることを意識して引くことでより力を発揮できたと思います。周りからは女子だから優勝できた、運が良かった

た、と言われ、悔しい思いをしましたが、実際にその通りなので自分も周りも納得させられる結果を出したかっ
たと思っています。中学校では文化部で勝負事やっ
てこなかったものですから、1年生のときから本番でよく
失敗していました。2年生のときから選手として出場さ
せていただいておりますから、だんだんと肝が据わっ
て以前ほどまでは緊張しなくなりましたが、入場ま
では手が震えるのは変わりません。何回も高専大会を経
験しているのに緊張から、後輩たちへのフォローまで手
が回らずいつもの調子を引き出せれば沼津高専も団体優
勝していたかもしれないと思うととても歯がゆいです。

全国大会では個人の部での出場でした。同じく選手の
秋山と介添えの岡野に良いところを見せようと、これま
での稽古のことを思い出して癖が出ないように注意すべ
き点を守るように必死に行射してきました。が、悔い
が残る試合内容と結果でした。私の集中力が持たなかつ

たり、驕りが出てきてしまったり、4年間の弓道経験で
はまだまだ未熟者です。高専大会や昇段審査など自分の
成長を見て取れる場に出て行きこれからもどんどん成長
していきたいと思っています。



行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

見守る体育祭

体育祭実行委員長 制御情報工学科4年
増山 広人

今年は前期体育祭の実行委員長を務めさせて頂きまし
た。

当初は雨が危ぶまれたものの、当日は皆様の日頃の行
いの賜物か、晴れたため無事に通常通りに体育祭を執り
行うことが出来ました。皆様、ありがとうございました。

当日の運営は頼もしい次世代のおかげで大きな問題や
遅延もなく、時間通りに運営できたため、とてもよかつ
たと思います。実行委員会の皆にはとても感謝していま
す。

後期では、実行委員長の座を3年生に譲り、見守る立
場での体育祭となりました。

僕の配慮が足らず、後輩達にわからない点が出てきて
しまい、後輩達には苦しい思いをさせてしまったことを
悔いています。しかし、彼らはそれでも立派に運営を執
り行い、体育祭を1日問題なく終えました。そこで僕は、
来年度以降の体育祭はより良いものになると確信しまし
た。とても期待しています。

また、長の任をおりて、久しぶりに競技の方に参加し
ました。僕は運動は苦手なので活躍は出来ませんでした
が、クラスメイトと共に競技に参加できたのでとても楽
しかったです。

来年度学生会長は来年度以降体育祭をただの球技大会
でなく、運動会のようにしようと言っていました。僕は、
それに賛成しています。やはり、高校生相当にあたる1
～3年生もいることですし、学校全体で盛り上げられるよ
うな運動会はとても魅力的だと思います。

今のような体育祭は今年で終わりかも知れません。来
年度、運動会が実現するかは分かりませんが、どちらに
なったとしても、それを楽しみにする人がいるならば、
体育祭実行委員会は尽力したいと思います。

高 専 祭

第52回高専祭 ～ Trump ～

高専祭実行委員長 電気電子工学科4年
野田 礼華

第52回目を迎えた今年度の高専祭は天候にも恵まれ、
過去最大の3000人を超える方々にお越しいただきました。

会場まで足を運んでいただいた保護者の方々、開催に伴っ
て協力していただいた職員の皆様に感謝申し上げます。
今年度の高専祭はどうだったでしょうか。私自身、今年
度の高専祭は私の4年間の高専祭の中で最も楽しむこと
ができました。

今年度で第52回目を迎えた高専祭のテーマは、その歴
史を52枚のトランプカードに例え、『Trump』でした。高
専祭スタッフをはじめ、たくさんの学生が高専祭の成功
に携わりました。私は実行委員長という立場で高専祭の
運営全体をみて、今までは見ることのできなかつた多く

の人の活躍を見つけることができました。高専祭スタッフには借用や交通など、決して目立たないが高専祭を支えている必要不可欠な部署があります。給料がもらえるわけでもないのに、高専祭のためにと汗を流して頑張っている姿にとっても感動しました。学科プロジェクトや研究室展示、部活動の出店等、高専祭を見渡せば学生一人一人が輝きを放っていました。まさに、トランプカード一つ一つに意味があるように、沼津高専の学生一人一人に役割があり、かけがえのない存在であることに気づかされました。個性豊かなトランプカードが作った今年の高専祭は私にとって忘れられない思い出です。

高専祭は年間を通して最も大きなイベントであり、高専生活では数少ない青春を味わえるような機会だと思

ます。同じ目標に向かって高専祭を作りあげる準備期間は、学年をも超えて和気藹々としており、とても楽しい時間です。しかし、今年度からは成績不振の学生は夜間のスタッフ活動に参加できないという新たなルールが定められました。私が学年を重ねて視点が変わったということもありますが、年々高専祭に関して自由が少なくなってきたように感じます。高専祭は自分だけが楽しむのではなく、沼津高専全体で盛り上がり楽しむ行事です。来年、再来年と高専祭が進化を遂げ続け、この先何年も楽しい行事であるために、ルールの中で楽しむこと、そして勉学に励むことが私たち学生一人一人に求められていると思います。第52回高専祭実行委員長として高専祭の明るい未来と更なる成長を願います。

3年生合宿研修

己に挑戦!! スキー研修・お互いを認め合う!! クラス別研修

3年学年代表・機械工学科
山中 仁

平成30年1月18日より1泊2日で3年合宿研修が開催されました。今年度の研修目的は「己を律し、主体性を持って行動する大切さを学ぶ」「日常と異なる環境で親睦を深め、お互いを認め合う」「己に挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶ」です。日中はスキー教室で、ふじてんスノーリゾートのインストラクターから実技指導を受け、夜はクラス別研修で、学生各自の長所を見つめ直し、自己PR文を作成しました。当日は季節外れの陽気でスキーには暑いぐらいでしたが、全員無事に帰校しました。研修の感想文から一部を紹介します。

(M3) 三橋未来

私は今までスキーをやったことがありませんでした。しかし、いざやってみるとうまく滑れず「私にスキーは向いていない」と諦めかけましたが、インストラクターさんや班員が「頑張れ!」と声をかけてくれたおかげで最後まで頑張ることができました。不可能だと思っていたでも一生懸命やればできるようになると身をもって学びました。

(E3) 竹内 成世

スキー研修では多くの人と関わり、コミュニケーションの大切さを知ることができました。

班員同士でお互いにアドバイスをすることで、初級者クラスから中級者クラスに上がることができました。

夜の研修ではお互いの良いところや将来についてグループで話し合いをしました。お互いに褒め合うのは少し恥ずかしかったですが、他人から見た自分の良さを知り、これからの自信に繋げる一つのいいきっかけとなったと



思います。

(D3) 川口大和

人生で3回目のスキーでしたが、さらに上達できました。基礎から少し難しいテクニックまでいろんなことに挑戦し、思った通りに動けるようになりました。班員と励まし教えあうこともあり、普段あまり話さない人との交流もありました。クラス別研修では色々な職業について考え、自分が興味を持ったものを改めて確認することができました。

(S3) 望月大誠

今回のスキー研修では、知らない人とコミュニケーションをとる力が鍛えられました。インストラクターに対しては礼儀正しく指示をしっかりと聞くことが大切であり、知らない班員でも話かけることがコミュニケーション力を磨く有効な手段であると感じました。クラス別研修がこのスキー合宿において一番有意義な時間になったと思います。3年生がもうすぐ終わろうとしている今、クラスメイトが将来のことをどう考えているのか、意見交換を行うきっかけになりました。自分の長所や短所も聞けて、自分がどのように他人から見えているのかを知ったことは大きな収穫でした。

(C3) 岩田真歩

今回のスキー研修を通じて、自分から行動することの大切さを実感しました。クラス別研修では、自分のダメな所を直すきっかけとなったり、逆に良い所を知るきっかけになったりしました。これから生活していく中で、

様々な人との関わりを意識し、様々な知識を得、自分の成長に活かしていきたいと思える研修でした。

この研修にご協力頂きました保護者の皆様をはじめ、関係各位に御礼申し上げます。

ロボットコンテスト2017

全国大会出場を目指して ～ロボコン部の挑戦～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木 悠 祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度も高専ロボコン東海北陸地区大会が10月15日(日)に三重交通G スポーツの杜 伊勢(三重県伊勢市)にて開催されました。今年はBチーム「嗚呼夢津 彡(アムツ マークスリー)」が特別賞(東京エレクトロン)を受賞しましたが、残念ながらAチーム「Eagle(イーグル)」と共に初戦敗退となりました。Aチームについては、勝つためのアイデアを実装し、試走

場でも良い動きを見せ、NHKの事前取材を受けるなど、注目を集めていたのですが、直前の回路の不具合やバッテリーの不調など多くのトラブルに試合直前まで追われ、十分なパフォーマンスを発揮できませんでした。Bチームについては独創的なアイデアが評価され、決勝戦の前に行われるエキシビジョンマッチに選出されました。釣り竿にひみつ道具をつけ、それを振り回す構造に審査員の方から興味を持ってもらったのだと感じています。結果としてアイデア倒れの結果になりましたが、そこが評価され、審査員特別賞となりました。

技術が継承され、注目されるアイデアが出せるようになってきた今、次の課題は全国に行きたいという強い思いだと感じています。今後ともロボコン部・部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。

ロボコン部部长 電子制御工学科3年
古川 陽 太

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」、通称高専ロボコンと呼ばれる大会は4月に競技課題が発表され、10月に地区大会、11月～12月に全国大会が行われます。僕達はオンシーズンと呼んでいる半年間で競技課題を満たすロボットを作成しています。競技は毎年異なり、縄跳び、蕎麦の出前、輪投げ、積み箱など様々です。ロボットは部内で2チームを作成し、それぞれ異なるアイデア・機構・コンセプトの元で作成しています。1台のサイズは1000mm四方を越えることもあり、それを2チーム分、多い年には7台ものロボットを作成しています。ロボット開発には当然キットなどがあるわけもなく、一からアルミや鋼材を切り出して部室や工場加工して作成しています。駆動部制御や、メイン、通信

部といったところも自分達で設計し、使っています。

今年度は1987年に始まって30年の節目の年。競技課題は『ちゃんばら』、相手との接触が見込まれる、面白くもあり多くの危険も伴うものでした。沼津は長らく全国大会へ行けていません。昨年は地区準優勝をしたものの全国推薦はされませんでした。「今年こそは！」そう意気込んでの幕開けとなりました。そして、大会当日両チームとも必死になって頑張りましたが、惜しくも初戦敗退となってしまいました。この結果になったのには様々な原因があると思われます。今、その原因を追求して部員みんなで解決をしています。ロボコン部一同、新たな一歩を踏んで更なる飛躍を目指し、全国大会出場を目指していきます。応援よろしく申し上げます。

東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト

第11回東海北陸地区高専スピーチ コンテストについて

教養科
藤井 数馬

平成29年11月11日に豊田高専を会場にして標記のコンテストが行われ、本校からは校内予選を突破した鈴木史栄琉君(電気電子工学科4年生)と高須麗奈さん(物質工学科3年生)が出場しました。今年度からスピーチからプレゼンテーションへと形態が変更されましたが、2人ともスライドを効果的に使いながら練習の成果を発揮し堂々と発表してくれました。その結果、高須さんが見事3位に入賞し、賞状と盾を手に入れました。教育後援会の皆様にはいつもご支援をいただいていることに感謝を申し上げます。

プレコン参加を振り返ってみて

電気電子工学科4年 鈴木 史栄琉

今年度、プレコンに参加してみても思ったことが、「大変だった」です。しかし、大変だった分、学ぶことや楽しかったことも多かったように思います。

大変だった点ですが、これは原稿作成とプレゼン内容の暗記の2点に尽きます。原稿作成では、普段英文をたくさん書かない私には多くの時間が必要でした。1度原稿が完成した後も、藤井先生やネイティブの先生の添削により、何度も原稿を書き直しました。大変でしたが自然

な英語表現や英語特有の主張の仕方等学ぶことが多々ありました。原稿完成後はプレゼンの練習と暗記に取り掛かりました。発音や立ち振る舞い等の指導をいただき、本番を見据えて練習を行うことができました。本番では練習の成果を出すことができ、とても満足しています。

面白かったことは、プレコン参加者に個性的な人が多かったことです。留学経験者、昆虫を食べるのが好きな人など、話していて楽しかったです。他高専と交流する機会がない私にとって、とても新鮮な経験でした。

今回プレコンに参加してみたくさんのことを学びました。とてもこの500文字以内には収まりません。英語の勉強と自身の成長を求めている高専生にはぜひ挑戦してほしいイベントです。

プレゼンテーションコンテスト

物質工学科3年 高須 麗奈

私は英語が好きです。とび抜けてできるわけではないし、知らない単語も山ほどあるけど、私は英語が好きです。だから、プレコンに出てみたいと思いました。

プレコンの準備を始めた夏。自分は何を伝えたいのか、それがなかなか上手くまとまらなくて、原稿とにらめっこしてばかりでした。

やっとのことで原稿が完成した頃。次はそれを覚えて、プレゼンをする練習が待っていました。発音はもちろん、感情を言葉にのせて相手に届けるということが出来ずに、

何度も繰り返しました。

ついにやってきた本番。少しの緊張の中でも、プレゼンをしている時間が楽しいと感じました。

そして、結果発表。私の名前が呼ばれました。3位でした。

ここまで頑張ってきて良かった、やりたいと思っていたことに挑戦して良かったと思いました。このような機会に恵まれて、経験できたことを嬉しく思います。

原稿作成から発表するまでの間にたくさんの人にお世話になりました。指導して下さった先生方、応援してくれた友達、背中を押してくれた家族。今回のこの結果は、私一人では到底手が届かなかったと思います。忙しい中時間を割いて下さったり、声を掛けて下さったり、ありがとうございました。

第12回読書感想文コンクール

応募作品 192点

最優秀賞

- 自由図書の部
『余命10年』を読んで C1 鈴木 伽野
- 課題図書の部
『犬が来る病院』を読んで C1 長田 真菜

優秀賞

- 自由図書の部
『杜子春』を読んで M1 水野 祐輔
『さよならドビュッシー』を読んで M1 望月 聖恋
『リズム』を読んで M1 富坂 聖司
『下町ロケット』を読んで M1 藤井 一宝
『君の隣臓を食べたい』を読んで D1 村山 慶将
『打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？』を読んで D1 坪井 寿裕
『キケン』を読んで D1 中村 光都
『天使の3P』を読んで D1 中村 一希
『地獄変』を読んで D1 岡部 紗楽
『星の王子さま』を読んで E1 加藤 太陽

『僕は君たちに武器を配りたい』を読んで
 『半島を出よ』を読んで
 『ディズニーを知ってディズニーを超える顧客満足入門』を読んで
 『ダ・ヴィンチの右脳と左脳を科学する』
 『また、同じ夢を見ていた』を読んで
 『君の臍臓を食べたい』を読んで
 『戦場のピアニスト』を読んで
 『化学探偵Mr.キュリー』を読んで

・課題図書の一部

『犬が来る病院』を読んで
 『犬が来る病院』を読んで
 『犬が来る病院』を読んで
 『ストロベリーライフ』を読んで
 『フラダン』を読んで

E1 成松寛九郎
 E1 竹内 寛人
 E1 長田 大芽
 S1 野間 智月
 S1 平垣 結衣
 S1 セグラ雪玉
 C1 青山遼太郎
 C1 森野 航平

M1 池野 舞
 E1 小川日菜子
 S1 高階未来翔
 S1 小林 颯大
 C1 道端 遥香

他者とつながるための読書

— 読書感想文コンクール報告 —

教養科 小村 宏 史

本校図書館主催、第12回読書感想文コンクールの結果をお知らせします。

自由図書部門最優秀賞には、鈴木伽野さんの「『余命10年』を読んで」が選ばれました。鈴木さんは、不治の病に突然襲われた主人公の境遇に自身を重ね合わせ、「生」「死」について考察したことを通し、「命の教科書のような」本であったと述べてくれました。

課題図書部門最優秀賞には、長田真菜さんの「『犬が来る病院』を読んで」が選ばれました。闘病生活の中で家族に思いを馳せる少女の姿を通し、長田さんは「自分を支えてくれる人たちに対して感謝の気持ちを持ち、それを伝えること」の大切さを説いてくれました。

両人とも共通して、他者の直面する現実を自身の内面とつなぎ、今後に前向きに生かす姿勢を示してくれています。読書とは他者とのつながりを得ることのできる行為なのです。この視座は、技術者としての社会貢献を目指す学生諸君にとって重要な意味をもつはずで、「人柄の良い優秀な技術者」となるためにも、学生諸君が充実した読書生活を送ってくれることを期待します。

知財の寺子屋活動報告

2017年度 知財のTKY活動報告

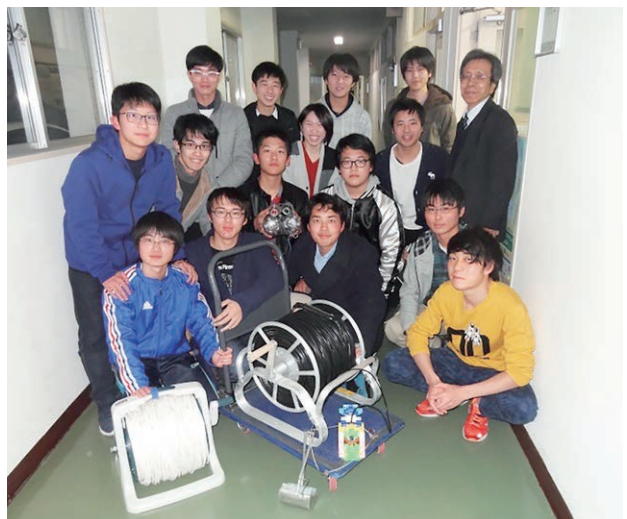
物質工学科5年 廣瀬 正 誠

1. 知財のTKYとは

沼津高専の特別同好会『知財のTKY（寺子屋）』は地域特性を活かした知的財産教育活動を目的に活動しています。具体的には地域の特性を理解したうえでその地域の課題を高専生が自ら取り組み、自らのアイデアで解決するという行動を通してアイデアを「創造・保護・活用」する力を育むことを目的に活動しています。行動指針として下の図にあるTKY Creative Challenge Compassを制定し、電池自動車・食育・フラワーアレンジメント・深海の各プロジェクトに取り組んでいます。活動を通して、パテントコンテストへの応募や学術発表なども積極的に行っています。

2. 深海プロジェクトとは

沼津市近郊の海は日本一高い山富士山と日本一深い海



駿河湾に近く、アクセスが良いという特徴があります。また、伊豆半島ジオパークとしての見どころの一つでもあります。そのため、海底調査・観光資源・産業応用などへの活用が期待されています。

しかし、水深10m程度はダイビング映像、2000m程度では深海探査船での映像がありますが、漁業や海底利用として有用な沼津近郊の100~200mの映像や、音の記録

は残念ながら多くはありません。

プロジェクトの目的は沼津近郊100～200mの映像や海中音の観察、マリンスノーを採取することで様々な分野への応用ができないかを模索することです。

水深200mへの挑戦には様々な壁がありました。

まず、学生たちが自力で行くことは金銭面、保険の面から困難でした。そこで、ヤマハマリーナ沼津の協力を得て、船、保険、安全の確保を依頼しました。

また、3.1～30m用ダイビング用のカメラを防水補強し、低価格での200mリアルタイム映像撮影をしています。

今年度は3回深海調査を実施しています。水深220m以

深の深海に到達したことで謎の生物をカメラに収め、海底に堆積したマリンスノーを採取しました。海中音の観察も含めてコンテンツ化していますが、次々と沼津の深海の謎を発見しています。「謎の深海生物を捕まいたい」という学生の目標が僕たちを深海に駆り立てるのだと実感しています。この活動がメディアに評価され、深海プロジェクトは飛躍の一年となりました。ここまでの支援をしていただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。来年度以降も更なる飛躍をご紹介しますのでよろしくお願い致します。

退職教職員から



定年退職にあたり

電気電子工学科
佐藤 憲史

今年3月で定年退職することになりました。2006年4月に着任してから12年間大変お世話になり感謝の念に堪えません。この間、クラス担任、電気電子工学科長、技術室長、弓道部顧問など数々の貴重な体験をさせていただきました。学生や教職員の皆様に助けられ、何とか業務を無事終えるところまでたどり着き安堵しております。ただ、職務を全うできたかといえば反省の思いしきりです。また、教育者として学生にどれほど影響を与えたかと考えると、はなはだ心もとない限りです。試行錯誤の毎日でしたが、その都度考えたことを拙文にしておりますので、お暇なときにホームページ(<http://user.numazu-ct.ac.jp/~sato.kenji/>)をご覧くださいれば幸甚です。

私が高専に関わりを持ったのは12年前沼津高専に採用になってからであり、高専については知らないことばかりで驚きと発見の連続でした。その多くは様々な考えを持った学生、教職員との出会いから始まり、自身を知ることにもなりました。その中で、高専教育について愚考

してきました。進学校では大学という目標があり、入学当時から勉強に追われます。大学に入った途端あまり勉強しなくなるとも言われています。高校—大学という一般的なコースに対し、高専は異なる選択肢を提供しています。その特徴の一つは実験・実習を重視していることです。理工系の学修には実験が不可欠です。沼津高専では2年生で「ミニ研究」があり、私は囲碁から自然観察まで自由なテーマで学生と楽しみました。しかし、高専の勉強は楽しいことばかりではなく、授業の進行が早く努力しないとついていけなくなります。数学や物理、専門といった科目では、論理的思考力が求められます。自ら疑問を持ち考える「思考実験」が必要ですが、学生に教えることの難しさを痛感しました。「思考実験」はアクティブラーニングに通じるように思います。中学校まであまり苦勞せず学修できてきた学生、必死に努力することを躊躇する学生に、どのようにしたら学習意欲を鼓舞することができるのでしょうか。怒鳴ったり脅かしたりしても駄目なことだけは身に染みて学びました。自身でその姿勢を見せるしかないと実践してきたつもりです。これからも「愚から大愚」へ学びの徒として精進していく所存です。

最後に、これまでのご芳情に深謝し、皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。



退職あたって

電気電子工学科
長澤 正氏

根っからの技術者であった亡き父は、設立当初から高専に注目しており、二人の息子や従兄弟たちに高専への進学をしきりに勧めておりました。私が中学の時に父の

勤める会社が倒産し、父は数人の同僚とともに「進桜電機」という会社を始めました。今もその会社は鮎壺の牧堰橋のたもとにあります。当時、家の経済状況も考え、また父の勧めもあり、何の迷いもなく高専に進学しました。

卒業後、大学へ進学し、日本電気株式会社に就職、念願だったコンピュータ開発の職に就きます。当時、コンピュータ業界は、高速コンピュータの開発競争にしのぎを削っており、世界最速を発表すると、すぐに他社が追い抜くというバトルが繰り返されておりました。その

開発競争にどっぷりとつかり、心身ともにすり減らしながら約13年間勤めました。バブル絶頂の頃、縁あって沼津高専に赴任することになりました。当時、父が大変喜んでくれたのが思い出されます。社会での経験は教鞭をとるにあたり大変役に立ったと思います。それに、納期やユーザー対応のストレスを思い起こせば、たいていのプレッシャーには耐えることができました。

電子制御工学科では早くから「もの作り」体験を授業にとり入れる試みがなされておりました。この種の体験型学習において、重視されるのが創造力の育成です。ただし、技術者に要求されるのは制約の中での創造力です。例えば、「山積みのレンガを乗り越えるロボットを開発しなさい。」というミッションに対し、現実には、「大きさ、コスト、使えるエネルギー、屋内か屋外か」など、様々な条件が課せられることとなります。開発のプロセスは、

創造したアイデアが実現可能か、制約を満たすか、性能を満たすか、納期は、部品の入手性を常に検討しながら進みます。

赴任当初、このような開発プロセスを疑似体験させるような授業を立ち上げてほしいというのが、学科からの要望でした。幸い、企業から来た私にはそのようなプロセスはイメージしやすかったのですが、いざカリキュラムを実施する段になると多くの困難にぶつかりました。いちばん大変だったのは、学生よりも先生方に理解してもらうことでした。それでも、このカリキュラムが軌道に乗り、学生たちが嬉々として取り込む姿を見るのは大きな喜びでした。このような授業の立ち上げに携わらせていただき、ほんとうに感謝しています。多くの学生たちとふれあうことができ、充実した27年間でした。ありがとうございました。



Auf Wiedersehen!

教養科（ドイツ語）
大久保 清 美

日本における第2外国語としてのドイツ語教授法については長い間、日本独文学会ドイツ語教育部会やゲーテ・インスティトゥート等を中心に研究・実践が行われてきた。私も30年以上に及ぶドイツ語教員生活の中でそれらの成果を受容しつつ、自分なりにさまざまな教授法を研究し、実践してきた。

教員になりたての頃は、自身が大学・大学院で受けてきたドイツ語教育（主に「文法・訳読教授法」）への反発から、学生が少しでも楽しくドイツ語を学べるよう、当時流行になりつつあったビデオ教材を多用した。特によく使ったのはゲーテ・インスティトゥート等が作成した”Alles Gute!”で、教授法としては「オーディオ・ビジュアル教授法」を採用した。この教材は全編がビデオから成り、「オーディオ・リンガル教授法」以来続く「文法を縦軸に、ドイツで生活する際に出会うさまざまなシーンでの会話」をドイツ人が演技してみせるもので、またランデスクンデ（ドイツ事情）も豊富に盛り込まれた大ぶりの教材である。学生は視覚・聴覚を刺激されることにより、大変主体的に授業に取り組み、授業評価も非常に高かったが、しかし残念ながら、この教材・教授法では「聞く」能力はある程度身に付くが、「話す」能力はあまり養成されない。

そこで、次に私が向かったのは、「話す」能力の養成だった。当時ちょうど沼津高専に移った頃だったので、さっそく慶應湘南藤沢キャンパス（SFC）の関口一郎先生の授業を見学させていただき、「コミュニケーション・アプローチ」を積極的に採り入れている教材を頂いてきた。

そしてしばらくの間、それを参考に自主教材を作り、「話す」コミュニケーション能力の養成を主眼に置いた授業を行った。学生も大変積極的に授業に参加し、授業に対する満足度も非常に高かったが、いかんせん、SFCなどと比べると授業時間が少ないため、一年終わっても結局、簡単なドイツ語が話せる程度という結果に終わり、教える側からすれば、残念な状態が続いた。

その後、1998年から99年にかけて、文部省在外研究員としてドイツのバイロイト大学DaF（外国語としてのドイツ語）学科でAlois Wierlacher教授について「異文化間コミュニケーション・アプローチ」の研究をした。この経験は、その後の私のドイツ語授業の方向性を決定付けた。「異質な世界との出会いとしての外国語学習」という「テーマ・内容」に重心を置く「異文化間コミュニケーション・アプローチ」は、例えばアジアのように、ドイツ語圏から遠く離れ、文化的にも全く異なる地域におけるドイツ語学習者を念頭に置いて考案された。ドイツ語会話入門のような授業に飽き足らなかった当時の私にとっては、これこそ日本人学生に最適な教授法だと思えたが、その代表的な教科書である“Sprachbrücke”などはとても大部なもので、ここでも少ない授業時間という壁にぶつかった。

その後、当時幹事を務めていた日本独文学会ドイツ語教育部会主催のあるシンポジウムで、ドイツでDaFを教えているパネリストが、「日本のドイツ語の先生は文法だけしっかり教えてください。あとはドイツで我々が教育しますから…」と発言されたのを聞き、軽いショックを受けるとともに、目からうろこが落ちた。それから後は、少ない授業時間を有効に使うために、半分は文法、半分はドイツ事情と割り切って授業をしている。一部「文法・訳読教授法」に先祖返りをした格好だが、「異文化間コミュニケーション・アプローチ」のエッセンスも堅持している。現在、文法の授業には自作の教科書を、ドイツ事情の授業にはDeutsche Welle等のビデオ教材を使用し

ている。

以上のように、これまで時代によってさまざまな教授法を用い、授業をしてきた。その動機は、学生にドイツ語授業に興味を持ってもらいたい、つまり主体的に学んでもらいたい、というところにあった。振り返ってみる

と、たしかに年齢を重ねるとともに次第に学生との距離は開いて行ったが、しかしそのねらいは概ね達成してきたと思う。おかげで幸せなドイツ語教員生活を送ることができた。代々の学生の皆さん、本当にありがとう。

それでは、Auf Wiedersehen!



人生の通過点…

総務課長

露木 弘 充

これまで幾度となく定年退職を迎える諸先輩を見送ってきた私が、とうとう見送られる側になりました。昭和61年5月に、当時の日本国有鉄道から文部省職員として本校に採用になって早32年、光陰矢の如し……まさにこの言葉そのものです。

庶務係員（現総務係）からスタートした高専でのキャリアは、ほぼ総務・人事系の仕事を中心にここまでできました。その間、他大学（静岡大学・東京芸術大学）に約10年程職員として籍を置き、外から高専を見ることも出来ました。長い高専生活、良い事も悪い事もいろいろありましたが、改めて自分の職業人生を振り返る中で、一番

思うことは、人は一人では生きていけない、誰かを助け、誰かに助けられて今の自分があると思っており、今まで関わった方々お一人お一人に感謝の気持ちでいっぱいです。

人生における大きな転機である「定年退職」は、ただの通過点に過ぎないと思っており、新たな一歩がどのような世界への一歩となるのか、とてもワクワクしています。次のステップである「セカンドキャリア」においては、キャリアコンサルタント資格（国家資格）を活かした「人の支援」を主たる仕事として歩んで行きたいと思っておりますが、さてさて現実はどうなることやら…。

4月以降、どんな仕事に就くにせよ、前向きに自分の人生を楽しんでいくためにも、「自分の居場所」を追い求めて行きたいと思っています。

最後になりましたが、これまでの皆様から頂いたご厚情に深く感謝申し上げますとともに、沼津高専に関わる学生諸君及び教職員の皆様方のご健康とご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

本当に有り難うございました。

卒業生・修了生から

私の高専生活

制御情報工学科5年 成田 佳 未

沼津高専での5年間の生活を振り返って、わたしの人生に大きな影響を与えた経験が2つあります。

1つ目は寮生活です。初めて逢う人達と共同生活をしなければならないということに、入学前のわたしは大きな不安を感じていました。しかし、実際に入寮するとたくさんのイベントを通してすぐに交友関係は広まり、ルームメイトとは共に毎日過ごすからこそ生まれる信頼関係が出来上がりました。入寮してからいちばん印象に残っていることは、寮での規則です。中学時代も規則はありましたが、それとは全く違う印象を受けました。理由としては、大人に罰せられるということと、学生間で罰し合うということに大きな差を感じたからです。それまで規則に対しては「そんな規則、なんで守る必要があるんだ」と思いがちでしたが、「規則は守らないと、役員の先輩や友人に迷惑を掛けてしまう」と感じるようになりました。規則違反を取り締まらなければならない側の苦勞を知ったからこそ、考え方の幅を広げることができたの

だと思えます。そのことに気付いてから、これまで「やらされている」と感じていたことを「協力している」と考えるようになりました。周りには窮屈と思われがちな寮生活ですが、わたしには新しい世界を見せてくれた大切な時間でした。

2つ目は、進路と向き合うことになった4年生としての1年間です。

4年生になったばかりの頃、自分の進路を決められずにいました。大きな焦りを感じて様々な先生方に相談したことを覚えています。普段話す同級生や上級生から聞く話とは少し違い、これからずっと先の事も踏まえたアドバイスは、わたしにとって大きな影響を与えてくれました。人生のどこに重点を置くのか、先生一人一人考え方は違い、多くの考え方を知ることができました。視野が広くなり、今したいことだけをとりあえず重視するような考え方ではなく、この先どう生きていくのかを踏まえた考え方ができるようになったことが、この1年間の大きな成長だと思っています。

最後に、わたしを人間として成長させてくれた寮や友人、先輩、後輩、忙しい中わたしのために時間を割いてくださった先生方にとっても感謝しています。そして、今のわたしを作り上げてくれた沼津高専に感謝しています。

感謝の意を込めて

物質工学科5年 江間 慧

高専本科での5年間がまもなく終わろうとしています。今回の執筆にあたり、同じ研究室に所属する友人たちからは「ふざけてよ」「おもしろいこと書いて」などと声をかけられました。しかしあまり良いネタは思い浮かばず、むしろ堅物の私にそんな風話してくれる友人の存在に感謝を感じました。そこで、まずは高専生活を簡単に振り返りつつ、お世話になった方々に感謝を示そうと思います。

4年生まで過ごした学生寮では、たくさんの楽しい思い出を得ました。2年次と3年次には役員を務め、ルールの中でいかに楽しむかが重要であると感じました。学校生活では、専門科目の講義および実験を通して多くを学びました。実験レポートの作成は大変な時もありましたが、熱意ある先生方のもとで学問の奥深さとおもしろさを感じました。高専祭では喫茶スタッフとして運営に関わり、安全・衛生管理に多くの配慮が必要であることを学びました。いずれも、友人や後輩、先輩方、先生方、その他多くの方々の支えなしには得られなかったであろう素晴らしい経験でした。

せっかく書いたから読んでほしい

総合システム工学専攻2年
(環境エネルギー工学コース)
太田 和希

7年間沼津高専にて学生生活を過ごし、修了間近の時期に私自身初めてこのような文章を書ける機会をいただいたことを大変喜ばしく思っています。

正直申し上げますと、「沼津高専だより」を今までしっかりと読んだことはなく、毎年3月期に発行されるものに卒業生・修了生からの欄があることを知ったのは執筆依頼が届いたのがきっかけです。編集担当者様には大変失礼ですが、高専7年目にして初めて知りました。沼津高専のホームページに「沼津高専だより」の過去何年か分のPDFファイルがありますので、もし私のように知らなかった人がいれば見てみると面白いかもしれません。私が拝見した中で印象に残ったのが、第106号、P.24、野村さんが書かれた「あまり食べられなかった私から」です。おしゃれな例えを使って高専1年目でよく聞かされる「生徒」と「学生」の違いについて書かれています。一読をお勧めします。

文字数制限が1000文字という関係上それほど多くのことは書くことができませんが、ためになる良いことは先

家族にも非常に感謝しています。私が高専にて勉強や部活、そのほかの活動に集中できたのは、家族の経済的かつ精神的な支えのおかげです。帰省の際にはいつも家族の温かみを感じました。また、同じく高専に在学している双子の弟の存在も心強かったです。今春には大学編入となり、まだまだ家族孝行というわけにはいきませんが、学生として勉学に励み活躍の報せを伝えられたらと思います。

本稿の執筆現在は卒業研究の日々を過ごしています。既定の答えのない研究活動は、望むような結果が得られないことも多く、真剣に取り組むほどに苦しみを覚えることもあります。その一方で、課題解決に向けて試行錯誤し、新たな知見を得ていく研究のやりがいや楽しさは、研究活動を始めたばかりの私にも感じ取ることが出来ます。素晴らしい指導教員のもとで卒業研究を行い、これから先も続く研究活動の第一歩を踏み出せました。優秀な研究者あるいは技術者となるために、さらに研鑽を積んでいきます。

改めて5年間を振り返ると、沼津高専では人との出会いに恵まれたと感じます。熱意ある先生、尊敬できる先輩、ともに笑い合える友人、慕ってくれる後輩、多くの人から得たこの5年間の経験を次のステージで活かし、頑張っていく予定です。ありがとうございました。

輩方が書いてくださっているのでもそちらを見るのも良いと思います。ただせっかくなので、この文章に目を通して後輩のために、私が伝えたいことを書いておきます。

私は生粋の「なんとなく」人間です。中学生の時、推薦があるから「なんとなく」高専を受験して、進級したから「なんとなく」勉強して卒業して、「なんとなく」専攻科に入って、「なんとなく」大学院受験して合格して、「なんとなく」修了していく予定です。こんな私ですから、本来、「高専だより」の卒業生・修了生からのスペースをいただいて何を伝えられるだろうかと思いました。ただ、「なんとなく」人間でも失敗しにくくする方法は経験からわかります。それは、「目標となる人」をつくることです。「目標となる人」は大概年上だと思います。「目標となる人」が成功している過程を見て、進学先や就職先、振る舞いを真似すれば失敗しにくくなります。「目標となる人」は進学や就職を機に変わってもいいです。「目標となる人」は複数いて良いところだけを真似るのも良いです。自分の意思が無いじゃないかと思う方もいるでしょうが、「目標となる人」は自分で決めますし、「まなぶ(学ぶ)」は「まねぶ(真似ぶ)」です。

最後にお世話になりました先生方、学校関係職員、先輩、同級生、後輩の皆様今までありがとうございました。これからもよろしくお祈りします。

私の高専時代



数学とスキーと寮生活と

電気工学科31期

鈴木正樹

沼津高専を卒業して21年、高専時代を振り返って思うことは、沼津高専を選択して良かったなということです。最も、高専時代の私に、人に自慢できるような武勇伝はありませんし、充実して満ち足りていたということでもありません。あまりうるさく言われることがなかった自由な校風と少し変わっていることを個性として受け入れる周囲の人たちの気質等、高専特有の雰囲気があっただけに合っていたのでしょう。それを理由にして良いのかどうか、この環境に甘え、勉強も部活も寮生活もすべてほどほどに、良い意味でも悪い意味でも余力を残しながらやっていたように思います。ただ、1つ言えることは、高専時代に得たことが今の私に繋がっているということです。

ロボットが好きでコンピューターが好きでその中に必ずある基盤を眺めるのが好きで、技術者を目指し大きな夢を持って電気工学科（現電気電子工学科）に入学しましたが、知識を積み重ねていくうちに学問の根底にある

のは数学ではないか、というのは建前で、本当のところは遠藤先生や西垣先生に憧れ、気が付けば数学の道を目指していました。数学がそれほど得意だったわけではありませんが、反面あまり困ることも無かったように記憶しています。

部活はスキー・山岳部（現スキー・スノーボード部）に所属していました。夏休みは残雪を求めスキー板片手に山にこもり、冬休みと春休みはスキー場隣接の民宿やロッジでバイトをしながら空き時間はスキーをして過ごしていたため、高専5年間で家に帰ったのは数日しかありません。部の活動として、私の2つ上の代から国体に挑戦するようになり、ゆるいながらもアルペンスキーにはまりました。スキーは今でもレースに出場するなど一生の趣味となっています。

美しい写真の案内パンフレットに自分のイメージを膨らませて入った寮は、階長からの叱責によりスタートし愕然としたものの、1週間もすればこんなものかとするぐ受け入れ、結局5年間を寮で過ごし、3年次には棟長を、4年次には寮長を、5年次には風紀長を務めました。これらを経験して得たことと失ったことがあります、それを書くには余白が狭すぎるようです。

数学とスキーと寮生活と、高専時代に得たこれら3つのことを基に卒業時に、またここに戻って来られたら良いなと何となく思っていたことが今現実になっています。

学生の研究活動 (2017.4.1~2018.3.31)

総合システム工学専攻

EC：環境エネルギー工学コース AC：新機能材料工学コース MC：医療福祉機器開発工学コース

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
AC1	○三谷祐一朗 田中椋祐 小林義光	計測自動制御学会 中部支部 教育工学研究委員会教育工学論文集、Vol.40 (2017) pp.32-34	PLCによるサーボ同期制御を用いた非接触搬送教材開発 -変位センサ内包型電磁石を用いた自律同定実験効果の検証-	三谷祐一朗
M5	○三谷祐一朗 藤沼謙斗 西由季央	沼津工業高等専門学校研究報告, 第52号 pp.1-8	マイクロPLCを活用したアクティブブランキングの試行 -PID制御器の実装を課題とするシーケンス/フィードバック制御の融合-	三谷祐一朗
EC2	○清水皓陽 高野明夫	沼津工業高等専門学校研究報告第52号、2018年1月、pp.13~16	昇圧チョッパを用いたVFMインバータの低周波領域特性改善	高野明夫

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

富士学会2017年春季学術大会
富士駅前交流センター「きらら」/2017.6.3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	諏訪尚也	空中写真による竹林判読と拡大状況の定量化(勝又隆博、鈴木静男)	鈴木静男

電子情報通信学会/電子部品・材料研究会
北見工業大学/2017.07.21-22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	白鳥大毅	集積型光アイソレータ実現のための磁気光学薄膜形成条件の検討	野毛 悟

第22回 知能メカトロニクスワークショップ
山梨大学甲府西キャンパス/2017.8.27-28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	櫻庭拓海	ファイバーブラシの5軸制御に基づく磨き加工用CAMシステムの開発—基礎実験の結果について—	藤尾三紀夫
MC1	小池志歩	患者の状態監視支援システムの開発—柵の検出—	藤尾三紀夫

電気学会 産業応用部門大会
函館アリーナ/2017.8.29-31

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	望月勇杜	パラメータ誤差を考慮した位置センサレス制御のための信号電流自動調整法	大沼 巧
MC2	岡田彩夏	拡張磁束モデルに基づく最大トルク制御座標系の直接推定による位置センサレス制御のロバスト性向上	大沼 巧
EC2	太田和希	磁気飽和によるインダクタンス変動の大きなモータへの最大トルク制御座標系の適用 優秀論文発表賞	大沼 巧
EC1	山本拓也	最大トルク制御座標系上における弱め磁束制御時の電流制御性能改善	大沼 巧
D5	内山恭輔	IPMSMの最大トルク制御座標系に基づく電流制御のトルク応答に関する検討	大沼 巧

第35回日本植物細胞分子生物学会
大宮ソニックシティ(さいたま市)/2017.8.29-31

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	山木海人	チャ(<i>Camellia sinensis</i>)抽出成分が毛状根アグロバクテリウム感染を阻害する可能性(寺前香里、一家崇志、森田明雄、古川一実)	古川一実
AC2	小泉舞衣	チャ(茶樹: <i>Camellia sinensis</i>)の形質転換における培養プロセスの短期化	古川一実

The 5th Japan-Korea Joint Symposium on Dynamics & Control
愛知大学/2017.8.29-30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	田中 椋 祐	Non-contact conveyance control system with self-identification function of the levitation object (Yuuichiroh Mitani, Ryosuke Tanaka, Yoshimitsu Kobayashi, Masaki Namie)	三谷祐一朗

日本機械学会Dynamics and Design Conference 2017
愛知大学豊橋キャンパス/2017.8.29-9.1

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	萩原実可子	Webカメラを用いた交通流計測システムの開発(鄭 萬 溶) 若手優秀講演フェロー賞受賞	鄭 萬 溶
EC2	藤原 秀 平	打音診断システムの開発に関する研究—片持ちばりにおける欠陥の位置推定—(鄭 萬 溶)	鄭 萬 溶

日本高専学会第23回年会講演会
米子工業高等専門学校/2017.9.2-3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	田中 椋 祐	自律同定機能を有する3軸ステージによる非接触搬送システムの開発	三谷祐一朗

日本機械学会2017年度年次大会
埼玉大学/2017.9.4-6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	加藤正純	組込みデバイスをを用いた抵抗線温度計の出力特性の改善(大庭勝久)	大庭勝久

日本セラミックス協会第33回関東支部研究発表会
ニューウェルシティ湯河原/2017.9.4-5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	坂部 靖 奈	Fe ³⁺ イオンを高含有したGe-イモゴライトの合成(平林星奈、山竹杏奈、山田美和、石田桃子、船津大輔、大川政志)	大川 政 志
C5	山竹 杏 奈	Cr ³⁺ イオン含有イモゴライト及びGe-イモゴライトの合成(坂部靖奈、平林星奈、山田美和、船津大輔、新井貴司、大川政志)	大川 政 志
C5	平 林 星 奈	UV-VISを用いたFe ³⁺ イオン含有Ge-イモゴライトの合成過程の検討(山竹杏奈、坂部靖奈、山田美和、加藤瑛司、渡邊みなみ、長田華穂、大川政志)	大川 政 志

2017年度電子情報通信学会ソサイエティ大会
 東京都市大学 世田谷キャンパス (東京) /2017.9.12-15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	桑原 悠太	フロー数がアドホックルーチングに伴うエネルギー効率に与える影響	山崎 悟史

第66回高分子子討論会
 愛媛大学 城北キャンパス/2017.9.20-22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	土屋 歩	液晶配向転移を利用した垂直シリンダー構造の巨視的単一配列化(小村元憲)	小村 元憲
AC2	松島 弘貴	コレステロール置換ヒアルロン酸-無機複合体の合成と機能(山根説子・大沼清・澤田晋一・佐々木善浩・秋吉一成)	大川 政志 山根 説子

2017年度精密工学会秋季大会学術講演会
 大阪大学豊中キャンパス/2017.9.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	櫻庭 拓海	ファイバーブラシの5軸制御に基づく磨き加工用CAMシステムの開発-曲面加工における基礎実験の結果について-	藤尾三紀夫
MC1	小池 志歩	患者の動向監視支援システムの開発-柵の状態検出-	藤尾三紀夫

国際会議2nd STI-Gigaku2017
 長岡技術科学大学/2017.10.6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	佐野 翼	Development of an Assist-As-Needed Robotic Assist Suit using surface EMG (Chihiro Obayashi)	大林 千尋

第7回CSJ化学フェスタ2017
 タワーホール船堀/2017.10.17-19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	勝又 滉平	担持金属上での水電解による高効率水素製造装置	大島 一真

電気絶縁誘電現象国際会議 IEEE Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena
 Hilton Fort Worth, Texas, USA/2017.10.22-25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	野田 剛志	High-Field Dielectric Properties of LDPE, PP and PS Films under AC Ramp Electric Field Application	遠山 和之
MC2	佐野友里花	High Field Dielectric Properties of Low Density Polyethylene with Rough Surface Under AC Ramp Electric Field Application	遠山 和之

第10回サラシア属植物シンポジウム
 明治記念館/2017.11.1

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	鈴木 康太	サラシア属植物の α -グルコシダーゼ活性阻害作用の測定について	芳野 恭士

第48回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
 岐阜大学/2017.11.11-12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	堀内 郁美	塩化マグネシウム水溶液中におけるマグネシウム加水分解反応(薬科知之)	薬科 知之

第24回電気学会東京支部山梨・静岡東部支所研究発表会
 山梨大学/2017.11.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	清水 皓陽	ベクトル周波数変調法による昇圧チョッパ付きインバータ	高野 明夫

第22回静岡健康・長寿学術フォーラム
 静岡グランシップ/2017.11.24

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	佐藤 経雄	Preventive effects of cellulose fibers on mouse metabolic syndrome models	芳野 恭士

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017
 キラメッセぬまづ/2017.11.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	矢幅 達也	小型DCモーターからの放射ノイズ測定システム	嶋 直樹
E5	添田 将輝	Arduinoを用いたバッテリー・マネジメントシステムの構築・評価	嶋 直樹
D5	永田 健太	筋電センサによる随意最大筋力計測とスポーツ工学的アプローチ(吉村大地、青木悠祐) 医療・健康分野 最優秀ポスター賞	青木 悠祐
D5	部谷 若菜	音響窓取得を可能とする超音波プローブ可動域計測シミュレーション(赤池郁也、青木悠祐) 制御・情報分野 最優秀ポスター賞	青木 悠祐
D5	白井 達也	呼吸による臓器変位を補償する超音波断層像処理システムの構築(大山拓真、青木悠祐)	青木 悠祐
D5	田中 哲太	橋梁下面における作業員負荷軽減を目的としたロボットユニットの設計(高橋元太、青木悠祐) 機械・電気電子分野 最優秀ポスター賞	青木 悠祐
D5	伊東大輔 久保寺智哉	エタノールの再資源化システムの自動化-未利用資源の有効活用を目指して-(伊東大輔、久保寺智哉、竹口昌之、大庭勝久) 材料・エネルギー・資源分野 最優秀ポスター賞	大庭 勝久

D5	岩田 啓吾 中津川智也	RCJサッカー競技における画像処理によるボール認識(川上 誠)	川上 誠
D5	山内 菜摘 望月 裕介	RCJサッカー競技に向けたTJ3Bを用いたロボット教材開発(川上 誠)	川上 誠
S5	影島 聖也	農業IoTデータの回帰分析に基づくイチゴ収穫量推定	山崎 悟史
C5	佐野 華鈴	シロップ廃水の利活用を可能とする新たな処理(今泉七星、小倉将也、竹口昌之) 優秀ポスター賞	竹口 昌之
C5	佐藤 経雄	マウス代謝症候群モデルに対するセルロース繊維の予防作用	芳野 恭士

日本育種学会中部談話会 静岡大学(静岡市) / 2017.12.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	富岡 雅矢	ニホンハッカ新品種育成のための育種素材の形態調査(古川一実)	古川 一実
AC2	小泉 舞衣	ボンバードメント法によるチャ不定胚の遺伝子導入条件および培養条件の検討(寺前香里、山下寛人、一家崇志、森田明雄、古川一実)	古川 一実

第27回日本MRS年次大会 横浜市開港記念会館 / 2017.12.5-7

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	土屋 歩	液晶配向転移を利用した垂直シリンダー構造の巨視的単一配列化(小村元憲) 奨励賞	小村 元憲

富士学会2017年秋季学術大会 日本大学国際関係学部 / 2017.12.9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	志田 来暉	富士山周辺におけるソーシャルデータを用いた観光ポテンシャルマップの作成(加藤亮大、酒井燈、鈴木祥高、鈴木雄介、鈴木静男)	鈴木 静男

モード解析研究会 北海道大学 / 2017.12.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC2	萩原実可子	Convolutional Neural Net and Bearing Fault Analysis (International Conference on Data Mining DMIN'16 pp.194-200)	鄭 萬 溶
EC2	廣瀬 圭佑	Baby Cry Detection in Domestic Environment using Deep Learning (ICSEE International Conference on the Science of Electrical Engineering)	鄭 萬 溶

第18回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 仙台国際センター / 2017.12.20-22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC2	大山 拓真	呼吸による超音波断層像横断面移動へのプローブ追従アプローチ方法の検討(白井達也、青木悠祐) SI2017優秀講演賞	青木 悠祐
MC2	吉村 大地	生体信号解析に基づいた超音波診断支援のための検査者疲労計測(永田健太、青木悠祐)	青木 悠祐
MC2	赤池 郁也	超音波診断における音響窓取得のためのプローブ接触位置・姿勢計測(部谷若菜、青木悠祐)	青木 悠祐
MC1	高橋 元太	超音波診断・治療補助ロボットによる検査者との協調動作のための操作力キャリアレーション(田中哲太、青木悠祐)	青木 悠祐
MC2	渡邊 武大	バイオフィードバック型アシストスーツのための筋電位計測システムの構築(堀部敬史、大林千尋)	大林 千尋
MC2	堀部 敬史	バイオフィードバック型アシストスーツのための筋電位計測システムの構築(渡邊武大、大林千尋)	大林 千尋

平成29年度先進的技術に関するシンポジウム 豊橋技術科学大学 / 2017.12.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	田中 椋祐	3軸ステージを用いた非接触搬送制御機材の開発	三谷 祐一朗
EC1	野田 剛志	直流重畳交流ランプ電界印加時の空間電荷層の評価方法の検討	遠山 和之
S5 S5 MC2	磯村 凌 望月 知樹 鈴木 英明	運動野の脳波を利用したリハビリ装置開発の基礎研究(豊橋技術科学大学 南哲人) 優秀プレゼンテーション賞	宮下 真信
S5	影島 聖也	多変量解析による農業IoTデータからの知識発見とその応用	山崎 悟史

第23回高専シンポジウムin神戸 神戸市立工業高等専門学校 / 2018.1.27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	藤井 大鵬	鋼管の4点曲げ疲労強度に関する研究(西田友久、水谷淳之介)	西田 友久
AC1	田中 椋祐	自律同定機能を有する3軸ステージによる非接触搬送システムの開発～搬送時における安定性の検証および高速化の検討～	三谷 祐一朗
D5	永田 健太	モーシオンキャプチャと筋電センサを用いたサッカー動作における熟練度解析(吉村大地、青木悠祐)	青木 悠祐

D5	部谷若菜	超音波診断支援のための音響可視化システムの構築 (赤池郁也、青木悠祐)	青木悠祐
D5	白井達也	超音波断層像処理を用いた呼吸による臓器の3次元移動範囲推定 (大山拓真、青木悠祐)	青木悠祐
D5	田中哲太	吊り足場における作業員負荷の定量化と支援システムの提案 (高橋元太、青木悠祐)	青木悠祐
D5	小篠凌大	画像分類による森林植生の推定 (伊藤凌、安田泰輔、鈴木静男)	鈴木静男
D5	志田来暉	カーネル密度推定による富士山周辺の観光動向分析 (加藤亮大、酒井燈、鈴木祥高、鈴木雄介、鈴木静男)	鈴木静男
D5	清水香樹	三保松原および千本松原における海岸林面積の経年変化 (加藤輝一、鈴木雄介、安田泰輔、鈴木静男)	鈴木静男
D5	諏訪尚也	画像分類による竹林の自動識別 (勝又隆博、安田泰輔、鈴木雄介、鈴木静男)	鈴木静男
D5	岩田啓吾 中津川智也	RCJサッカーオープンリーグにおける画像処理を用いた機体の開発 (川上誠)	川上誠
D5	望月裕介	RCJサッカー競技用のロボット開発 (川上誠)	川上誠
D5	山内菜摘	RCJサッカー競技ビギナーズリーグに向けた教材開発 (川上誠)	川上誠
S5	岩田和磨	患者の動向監視支援システムの開発 - 患者パラメータの自動調整について -	藤尾三紀夫
C5	朝比奈佑磨	担持貴金属触媒を用いる単糖の水相改質 (稲津晃司)	稲津晃司
C5	江間 慧	CO ₂ フリーアンモニア工業合成用ルテニウム触媒の開発 (稲津晃司)	稲津晃司
C5	竹内郁弥	アンモニア選択酸化用担持金属触媒の調製 (稲津晃司)	稲津晃司
C5	宮下昂大	分散型アンモニア合成用新規ルテニウム-鉄触媒の探索 (稲津晃司)	稲津晃司

第20回化学工学会学生発表会(東京大会)
東京理科大学葛飾キャンパス/2018.3.3

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	金子光瑠	でん粉工場廃水中タンパク質を加水分解するプロテアーゼ分泌菌の探索 (渡辺昌治、木村和夫、佐藤正昭、竹口昌之)	竹口昌之

日本機械学会東海学生会第49回学生員卒業研究発表講演会
名古屋大学/2018.3.12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	伊東大輔	FPGAによる二線式温度流速計の補償系の統合 (大庭勝久)	大庭勝久
D5	久保寺智哉	熱線流速計の温度変動場における計測精度の改善 (大庭勝久)	大庭勝久
D5	森麻浦	廃棄物の効率的な資源化に向けた蒸留塔の自動化システムの開発 (大庭勝久)	大庭勝久

平成30年 電気学会全国大会
九州大学 伊都キャンパス/2018.3.14-16

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC2	白鳥大毅	集積型光アイソレータ実現のための磁気光学薄膜形成条件の検討	野毛 悟
EC1	山本拓也	最大トルク制御座標上におけるトルク変動を抑制する弱め磁束制御	大沼 巧
D5	鈴木昭義	最大トルク制御座標上におけるIPMSMの電流制御系の構築	大沼 巧
EC2	太田和希	拡張誘起電圧モデルに基づく位置センサレス制御時における最大トルク制御座標系の位相誤差解析	大沼 巧
MC2	佐野友里花	傷のついたLDPEフィルムの高電界誘電特性	遠山和之

精密工学会第25回学生会員卒業研究発表講演会
中央大学 後樂園キャンパス/2018.3.15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	中野齊可太	オンマシン磨き加工用CAMシステムの開発 - 凹型球面での等高線工具経路生成について -	藤尾三紀夫
S5	岩田和磨	患者の動向監視支援システムの開発 - 患者パラメータの自動調整について -	藤尾三紀夫

2018年度電子情報通信学会総合大会
東京電機大学 東京千住キャンパス (東京) /2018.3.20-23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	桑原悠太	エネルギー効率改善のためのフラッドニング制御法の特長評価 (久保田雅也、板庇翼)	山崎悟史

平成29年度卒業生・修了生進路先一覧

平成30年2月27日現在

機械工学科

35名

就職先企業

24名

特種東海製紙株式会社	1
静岡ガス株式会社	1
トヨタ自動車株式会社	1
株式会社リコー	1
東レ株式会社	1
村田機械株式会社	1
株式会社 牧野フライス製作所	1
東京エレクトロン株式会社	1
サントリービール株式会社	1
株式会社 日産オートモーティブテクノロジー	1
一般社団法人日本建設機械施工協会施工技術総合研究所	1
株式会社 ショーワ	1
浜松ホトニクス株式会社	1
東海部品工業株式会社	1
J X T G エネルギー株式会社	1

矢崎総業株式会社	1
株式会社 NHK メディアテクノロジー	1
本田技研工業株式会社	1
日立オートモティブシステムズメジャメント株式会社	1
キャノンマーケティングジャパン株式会社	1
TDM株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)	1
株式会社 豊幸	1
ベックマン・コールター株式会社	1

進学 (編入学) 先大学等

11名

北海道大学工学部	1
秋田大学理工学部	1
長岡技術科学大学工学部	2
首都大学東京都市教養学部	1
奈良女子大学理学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5

電気電子工学科

33名

就職先企業

18名

東芝プラントシステム株式会社	1
森永乳業株式会社	1
富士乳業株式会社	1
Meiji Seika ファルマ株式会社	1
株式会社 資生堂	1
株式会社 日立ハイテクサイエンス	1
キャノンメディカルシステムズ株式会社	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
株式会社 明電舎	1
キャノンマーケティングジャパン株式会社	1
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	1
本田技研工業株式会社	1

中部電力株式会社	2
東京電力ホールディングス株式会社	1
静岡ガス株式会社	1
東京ガス株式会社	1

進学 (編入学) 先大学等

15名

秋田大学教育文化学部	1
東北大学工学部	1
東京農工大学工学部	1
東京理科大学理学部	1
豊橋技術科学大学工学部	5
愛媛大学理学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	3
進学希望	2

電子制御工学科

44名

就職先企業

22名

大日精化工業株式会社	1
株式会社 ネクサス	1
東芝キャリア株式会社	1
株式会社 明電エンジニアリング	1
日本特殊陶業株式会社	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
株式会社 ビット・トレード・ワン	1
富士電機株式会社	1
独立行政法人国立印刷局	1
浜松ホトニクス株式会社	1
明電システムソリューション株式会社	1
ヤマハモーターハイドロリックシステム株式会社	1
株式会社 リコー	1

株式会社 日立ヘルスケア・マニュファクチャリング	1
矢崎総業株式会社	1
株式会社 アイズ・ソフトウェア	1
ソニーエンジニアリング株式会社	1
株式会社 フーリエ	1
総合警備保障株式会社	1
株式会社 アステクノス	1
株式会社 NHK アイテック	1
東海交通機械株式会社	1

進学 (編入学) 先大学等

22名

新潟大学工学部	1
首都大学東京システムデザイン学部	1
東京農工大学工学部	1
静岡大学工学部	1

豊橋技術科学大学工学部	2
広島市立大学情報科学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	15

制御情報工学科

35名

就職先企業

15名

AMEC コンサルタンツ株式会社	1
NTTコム エンジニアリング株式会社	1
北都システム株式会社	1
株式会社マイスターエンジニアリング	1
横河電機株式会社	1
株式会社テクノサイト	1
日通システム株式会社	1
キャノン株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
株式会社メンバーズ	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
株式会社タイムインターメディア	1
株式会社 アルバック	1
キャノンメディカルシステムズ株式会社	1
株式会社大隈技研	1

進学（編入学）先大学等

20名

新潟大学工学部	1
福井大学工学部	1
茨城大学工学部	1
埼玉大学工学部	1
千葉大学工学部	1
東京大学工学部	1
東京工業大学工学院	1
東京農工大学工学部	1
首都大学東京システムデザイン学部	2
東京工科大学コンピュータサイエンス学部	1
豊橋技術科学大学工学部	4
奈良女子大学理学部	1
和歌山大学システム工学部	2
九州工業大学情報工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	1

物質工学科

42名

就職先企業

14名

アステラス ファーマ テック株式会社	1
株式会社A D E K A	1
東洋インキ株式会社	1
東芝機械株式会社	1
東レ株式会社	1
花王株式会社	1
ポリプラスチックス株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
森永乳業株式会社	2
Meiji Seika ファルマ株式会社	1
東京都下水道サービス株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
花王コスメプロダクツ小田原株式会社	1

進学（編入学）先大学等

28名

信州大学農学部	1
信州大学繊維学部	1
筑波大学生命環境学群	2
長岡技術科学大学工学部	4
東京工業大学生命理工学院	2
東京農工大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	8
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
奈良女子大学理学部	1
高知大学理学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	5
進学希望	1

総合システム工学専攻**環境エネルギー工学コース**

8名

就職先企業

4名

矢崎総業株式会社	1
三菱電機エンジニアリング株式会社	1
パナソニック ITS株式会社	1
日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア株式会社	1

進学先等

4名

電気通信大学大学院 情報理工学専攻	1
名古屋大学大学院 工学研究科	1
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	1
豊橋技術科学大学大学院 電気・電子情報課程	1

新機能材料工学コース

7名

就職先企業

5名

ケイ・アイ化成株式会社	1
富士乳業株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
花王株式会社	1
有限会社マツオ工機	1

進学先等

2名

奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科	1
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	1

医療福祉機器開発工学コース

10名

就職先企業

9名

パナソニック株式会社 アプライアンス社	1
株式会社リンクス	1
株式会社明電舎	1
AMEC コンサルタantz株式会社	1
日本軽金属株式会社	1
富士乳業株式会社	1
株式会社パワーソリューションズ	1
富士フィルムメディカル株式会社	1
横浜ゴム株式会社	1

進学先等

1名

慶應義塾大学大学院 理工学研究科	1
------------------	---

教育後援会から**夢をかたちに**

教育後援会会長 上 柳 麻里子

卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。保護者の皆様もこの日を迎えられ、お喜びのことと存じます。

また常にあたたかく、時に厳しく見守ってくださった先生方、学校関係者の方々に保護者を代表いたしまして御礼申し上げます。周りの多くの皆様に見守られ、祝福されて沼津高専を巣立つ皆さんにはこれから、企業・または大学という新たなステージで思う存分輝いてほしいと思います。

技術は想像を超える速さで進歩しています。今はSNSを使って一瞬にして世界中と繋がることができます。あまりにも日常的すぎて、当たり前のように感じますが、皆さんが生まれた20数年前にはスマートフォンもありませんでしたし、携帯電話さえ珍しいものでした。ましてや人工知能との将棋対局や車の自動運転なども考えもつかないものでした。今日それらが身近になってきたのは、人々の夢を皆さんの先輩技術者の方々が、少しずつかたちにしてきたからにほかなりません。今後、世の中がどのように進歩していくかは未知数ですが、その進歩の一翼を担うのは皆さんのような若い技術者です。

今、皆さんはどのような夢を持っていますか？ぜひ大

きな夢を持ち続けてください。「人柄の良い優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という教育理念の通り、人としてのあるべき姿を考え、利便性を追求しながらもそれだけではなく、世界中の人々が人間らしさを失わずにいられる素敵な世の中になるよう知恵と力を発揮してください。

この先、いつでも順風満帆というわけではありません。つらい時、苦しい時もあるでしょう。それでも私は、人生は楽しいものだ！と信じます。苦しいことを乗り越えた時の喜び、難しいと思っていた仕事を成し遂げた時の達成感・・・そんな人生の楽しさを伝えることが、親や大人の先輩である私たちの役目だと思ってきました。これから皆さんが人生の楽しさを感じながら自分自身と周りの幸せを考え、世の中を引っばるリーダーになるよう願っています。

大きく羽ばたいてください。

夢をかたちにしてください。

卒業、修了、おめでとうございます。



同窓会から

同窓会50周年、そして未来へ

同窓会会長（機械工学科6期） 木戸 実

同窓会50年の歴史は、卒業生50年の歴史となります。1967年（昭和42年）に、第1回の卒業生が社会へ送り出され、その数は現在、九千数百名に及んでいます。昨年11月の高専祭では、「卒業生による企業展示」を開催しました。24企業の展示ブースが体育館いっぱいに並び、来場者は2日間で1500名を超えました。総勢100名の説明者は全て沼津高専の卒業生が務め、学生、保護者、一般来場者らは熱心に聞き入っていました。その光景を目の当たりにして、沼津高専の卒業生がそれぞれの分野で、その中枢として活躍されていることを実感し、また同時に50年の歴史を確認した思いでした。

この50周年を記念して母校へは、学校側より提案をいただいた「第二校歌」を同窓会から寄贈しました。フレーズや単語などは、学生、教職員、卒業生へ募りそれらを制作者にお伝えして、その内容が盛り込まれています。創校時の思いが込められた現在の校歌は、今後も大事に歌い継ぐ一方で、これからの新しいページを加えていく、また身近に口ずさむ、そんな第二校歌として、新しい歴

史を刻んでいくことを願っています。

全国高専卒業生は年間でおよそ1万人です。大学卒業生の数は年間約60万人、短大卒は約6万人、専門学校卒は20数万人ですから、それらと比較すると高専卒業生はかなり希少な存在です。その中の沼津高専の同窓生は、同窓会という繋がりを持って、同窓生同士の交流や同窓会としての活動が展開できるよう、今年51年目を迎えて、新たな試みを取り入れながら、今後も代々引き継がれていくことを期待しています。

一昨年度から始めた「小さな同窓会支援」の制度利用が年々少しずつ増えてきました。同窓生10名以上参加のイベント（クラス会、クラブOB会など何でも）に1万円、21名以上で2万円の助成金支給を行うものです。この開催の様子を同窓会HPに掲載して皆様に見ていただくことで、少しでも草の根活動に役立てばと創設したものです。更には学校や学生、保護者、地域社会などとの交流や活動の場を積極的に広めていくこと、新しい着想も大いに取り入れて、同窓会の存在価値を高めていくことを目指していきたいと考えています。

皆様の積極的な参加を心からお待ちしています。

（同窓会HPは <http://www.nct-dsk.com> です）



お知らせ

海外留学プログラムについて

若い間に海外の文化や生活を経験することは、皆さんにとって貴重な経験になります。以下に皆さんが応募可能なプログラムを列挙します。詳細は学生課まで問い合わせして下さい。

【本校が行っているもの】

- 専攻科海外長期インターンシップ
- クモ工科大学短期留学

【本校が業者に委託しているもの】

- ニュージーランド語学研修&異文化体験

【高専機構が行っているもの】

- International Symposium on Technology for Sustainability
- イギリスオックスフォード・ハートフォードカレッジ語学研修
- マレーシア・ペナン海外研修
- ファシリテーションスキル英語研修
- テクニカルチャレンジプログラム
- 高専生のための英語キャンプ
- シリコンバレー短期留学プログラム
- 中国・大連短期留学プログラム
- オーストラリア語学研修
- デジタル信号処理ハンズオントレーニング

- プログラムチャレンジinシンガポール
- オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム

【文部科学省 トビタテ留学JAPAN】

- 大学コース
- 高校生コース
- 未来テクノロジー人材枠
- ふじのくにグローバル人材育成事業

【自治体等が実施しているもの】

- 高校生姉妹都市（カラマズー市）ホームステイ体験「沼津市」
- 友好都市（岳陽市）留学生派遣（隔年実施）「沼津市」
- 姉妹都市（パサディナ市）大学生夏期研修生相互派遣「三島市」
- メドウェイ高校生交換プログラム「伊東市」
- 短期留学交流事業（中国浙江省内大学）「静岡県」
- 青年国際交流事業（世界青年の船 他）「内閣府」

平成30年度前期授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生を対象に、平成30年度前期授業料免除および徴収猶予の申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は、原則として「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法 「授業料免除申請書」または「授業料徴収猶予申請書」（所定様式）を学生係へ提出する。
提出期限 平成30年3月30日(金)
 所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。
 ※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。

注意事項 1 平成29年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。
 2 ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。

各種奨学金について

平成29年度に募集が行われた主な奨学金

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
1	【貸与型】 日本学生支援機構奨学金	(無利息) 全学年	経済的理由により修学に困難がある優れた学生	月額1万円～5万1千円(入学年度、通学形態(自宅通学・自宅外通学)によって定められた2種類の額のいずれかを選択する)	要	4月
		(有利息) 本科 4・5年生 専攻科生		月額3万円～12万円(5種類の貸与月額から自由に選択できる)		
2	【給付型】 日本学生支援機構奨学金	本科3年生	翌年度に本科4年生への進級又は大学・短期大学・専修学校(専門課程)への進学を予定しており、以下のいずれかに該当する者 ①家計支持者が個人住民税(市町村民税)所得割を課されていないこと ②生活保護を受給していること ③次の施設等に入所等していること 児童養護施設/児童心理治療施設/児童自立支援施設/児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)を行う者/小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)を行う者/里親	月額2万円～4万円(在学中又は進学先大学等の設置者(国公立、私立)・通学形態(自宅通学、自宅外通学)により決まる)	不要	6～7月
3	天野工業技術研究所奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	4月
4	公益財団法人ウシオ財団奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内(専攻科に進学予定の者)	月額6万円	不要	4月
5	静岡県高等学校等奨学金	本科 1～5年生	保護者が静岡県内に居住しており、以下のいずれかに該当する世帯の者 ①生活保護を受給している ②市町民税が非課税になっている ③市町民税が減額になっている ④世帯全員の収入合計が生活保護基準額の1.5倍以下である	自宅通学： 月額1万8千円 自宅外通学： 月額2万3千円	要	4月
6	関育英会奨学金	本科2年生	人物・学業とも優秀かつ健康でありながら、学資の支弁が困難と認められる者	月額2万円	要	4～5月
7	あしなが育英会奨学金	全学年	保護者等が、病気や災害もしくは自死等で死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の学生	月額2万5千円	要	4～12月
8	公益財団法人エンケイ財団奨学金	本科 4・5年生 専攻科生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	5月
9	イハラサイエンス 夢創造支援センター奨学金	本科4年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	月額2万円	不要	5月

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
10	川村育英会奨学金	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①生計を一とする家族の年間収入(祖父母の年金収入は除く)が500万円以下 ②成績証明書(前年度学年末時点)記載の学業成績に占める、A評価の割合が50%以上	月額2万円	不要	5~6月
11	公益財団法人タミヤ奨学会奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①国内の4年制大学に進学する者 ②学業・人物ともに優秀かつ健康な者 ③経済的理由から就学が困難な者 ④応募時の現住所が静岡県内である者 ⑤兄弟姉妹がタミヤ奨学金を受給していない者	月額2万5千円	不要	9~12月
12	公益財団法人スズキ教育文化財団大学奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①4年制以上の大学に進学予定の者 ②向上心が強く、学業、人物とも優秀かつ健康であって、経済的理由により修学に専念出来ない者 ③大学入学後、給付、貸与を問わず他のいかなる奨学金も受給しない者	月額5万円	不要	12~1月
13	沼津中央ライオンズ基金奨学金	本科1・2年生	以下の条件を全て満たす者 ①沼津市に保護者と共に居住している者(ただし、寮生の場合は出身が沼津市内であれば可) ②品行方正、学業優秀又は一芸に秀でてその道で将来を嘱望されている者で、かつ経済的援助が必要と認められる者	月額1万5千円以内	不要	11~1月
14	熱海市育英事業奨学金	全学年	以下の条件を全て満たす者 ①保護者が熱海市内に居住している者 ②翌4月に本校に在学している者又は大学(専攻科を含む)に進学する者 ③経済的理由により修学困難な者 ※その他学力・所得要件有り	本科1~5年生:月額1万9千円以内 専攻科生・大学生:月額4万4千円以内	要	11~1月
15	ビヨンドトゥモロー ジャパン 未来スカラシップ・プログラム	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①次の一つ以上に該当すること 保護者が死亡/単親家庭(母子、父子家庭等)/児童養護施設に暮らしている/里親家庭に暮らしている/生活保護受給世帯に暮らしている ②年間を通じて開催される各種プログラムに参加する意志があること ③オリエンテーション・プログラムへの参加を確約できること	年額72万円	不要	11月

※奨学金募集の有無・募集時期は、年度によって異なる場合がありますので、ご確認願います。

※申請者全員が採用されるとは限りません。

※上記以外にも、地域で奨学金の募集を行っている場合があります。詳しくは、お住まい地域の自治体へお問い合わせください。

沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス： ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等を行います。原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。(ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます)
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会（事務担当：総務係）

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp

行事予定表

平成30年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年合宿研修
1年授業参観・クラス懇談会

5月 2～4年クラス懇談会
寮祭
スポーツ大会・学生総会
平成31年度専攻科推薦入学試験

6月 前期中間試験
防災訓練・高専大会壮行会
東海地区高専体育大会（～7月）
平成31年度専攻科学力入学試験

8月 1～4年保護者懇談会
一日体験入学
全国高専体育大会

9月 寮生リーダー研修会
前期末試験
2年特別研修
4年工場見学

10月 東海北陸地区ロボコン大会
体育祭・学生総会

11月 授業参観・学科説明会
文化講演会
高専祭・体験授業
全国ロボコン大会
後期中間試験
テクノフォーラム

平成31年

1月 平成31年度推薦選抜入試

2月 卒業研究発表
学年末試験
平成31年度学力選抜入試
終業式
寮生リーダー研修会

3月 卒業式・修了式

